

計画段階評価について
山陰道（こはま小浜～たまがわ田万川）
第1回 説明資料

平成28年6月7日

国土交通省 中国地方整備局

1. 計画段階評価の検討の流れ	・ ・ ・	2
2. 地域の概況	・ ・ ・	6
3. 道路の状況と課題	・ ・ ・	11
4. 地域の状況と課題	・ ・ ・	18
5. 課題の整理	・ ・ ・	29
6. 意見聴取方法	・ ・ ・	36

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1. 中国地方の高規格幹線道路網

○小浜～田万川間は、日本海国土軸の一部を担う山陰道(須子～萩)の一部。
 ○島根県益田市～山口県萩市の県境部に位置し、北側の日本海と南側の山地に挟まれた自然豊かな地域である。

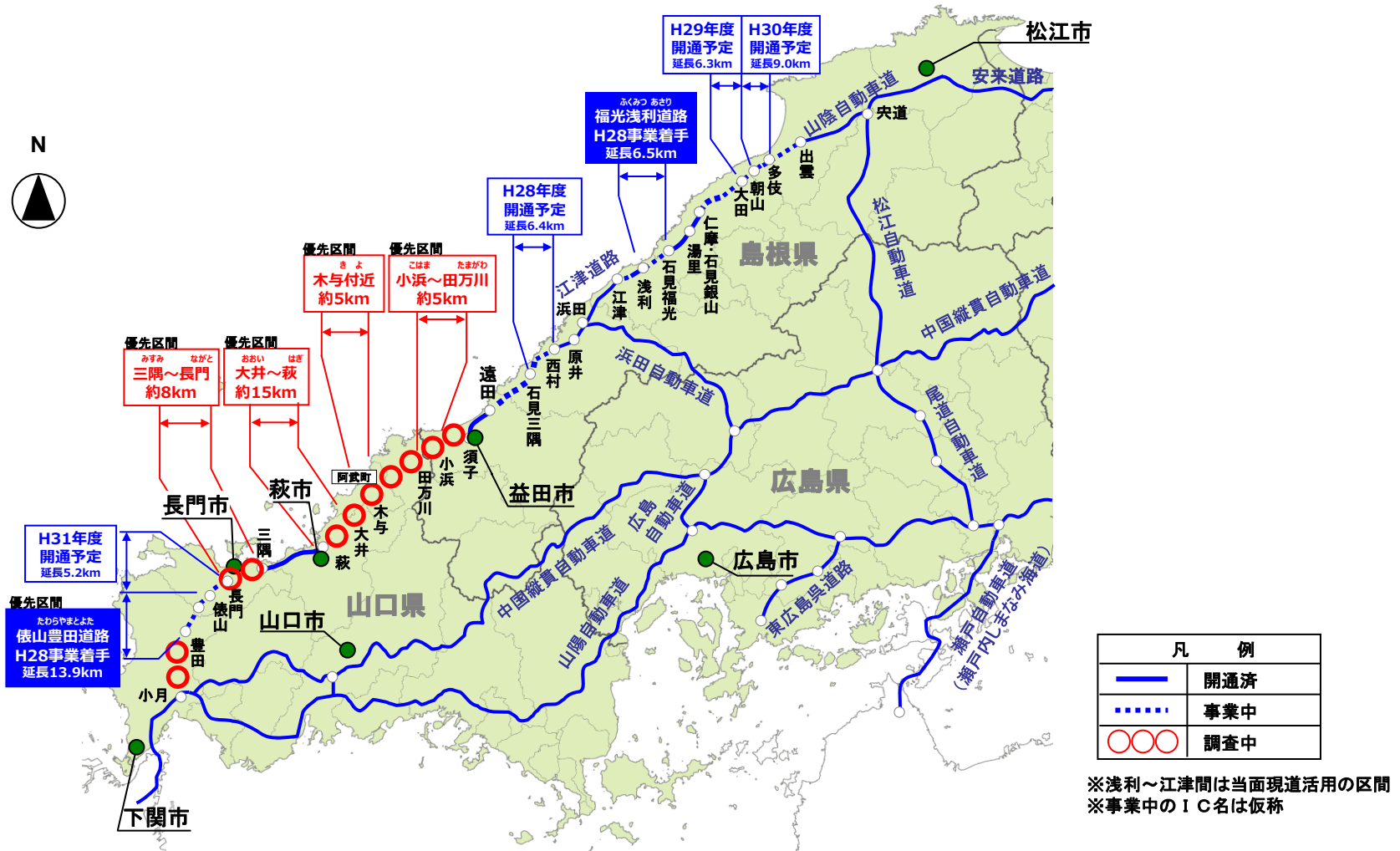
【広域図】



1-2. 山陰道（島根県、山口県区間）の進捗

○木与付近、大井～萩間の概略ルート・構造の検討(計画段階評価)を開始し、平成27年10月～11月に、地域や道路の課題等に関する地域の意見聴取を実施している。

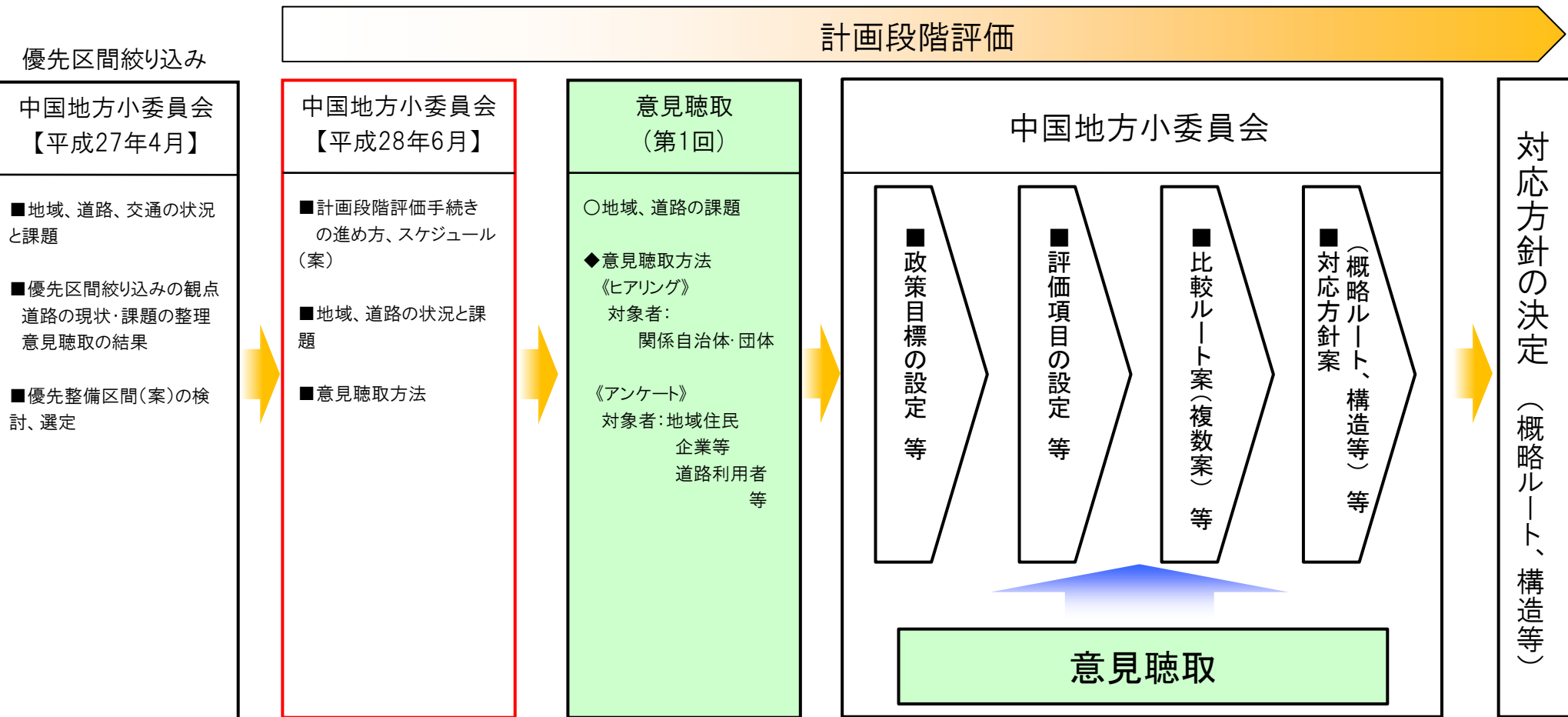
○島根県の福光・浅利道路及び山口県の俵山・豊田道路が平成28年度に新規事業化されている。



1-3. 計画段階評価の検討の流れ

■計画段階評価手続きの進め方、スケジュール(案)

地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画[概略ルート、構造等]について検討を行う。



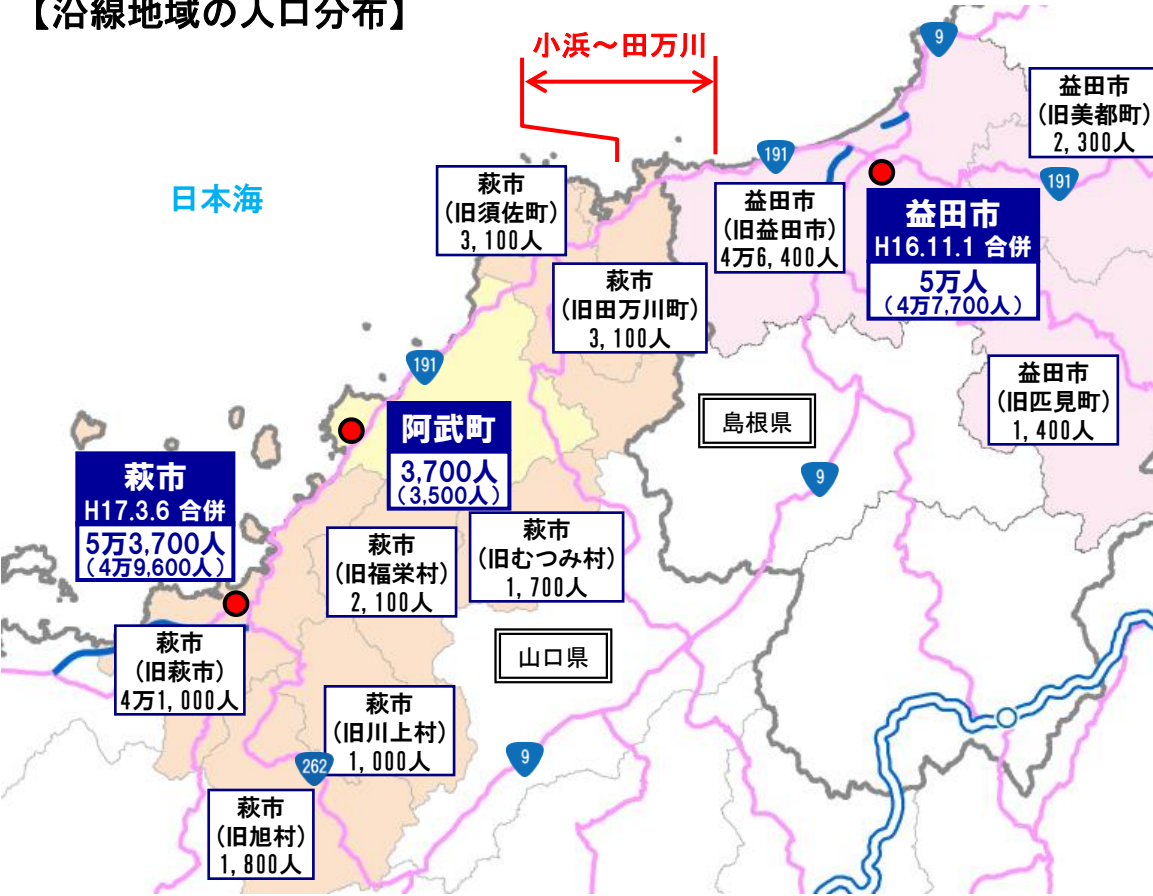
※各段階で随時自治体と調整

2. 地域の概況

2. 地域の概況（人口）

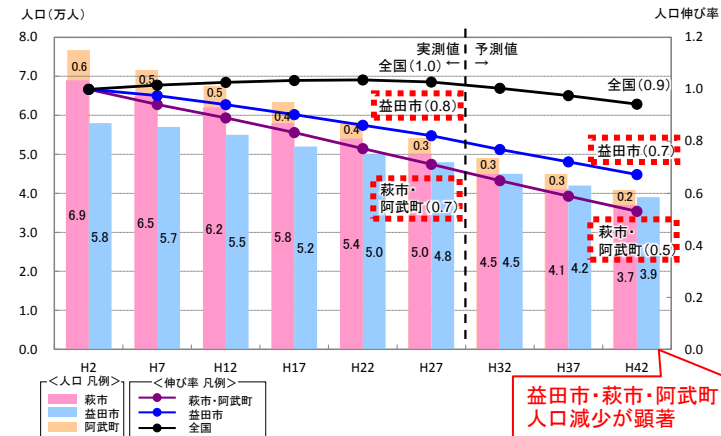
- 益田市から萩市に至る2市1町からなる沿線地域の人口は約11万人。
- 沿線地域(益田市～萩市)では全国に比べ人口減少及び高齢化が著しい。

【沿線地域の人口分布】



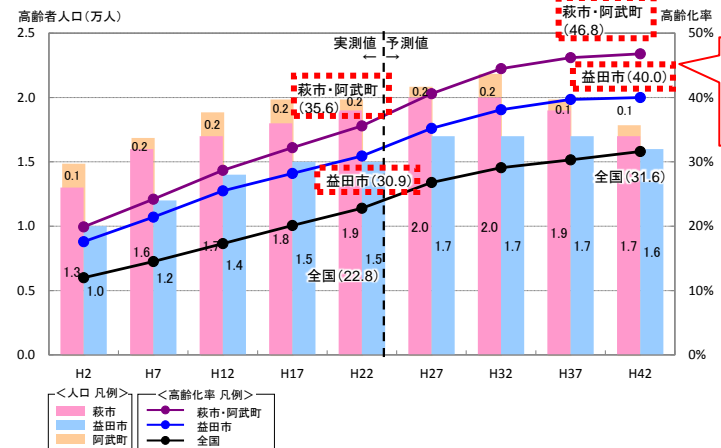
資料：(人口) H22国勢調査、括弧内はH27国勢調査速報値

【人口の推移と伸び率】(平成2年を1.0とした場合)



資料：【実績値】H22国勢調査、H27国勢調査速報値(総務省)、「予測値」日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

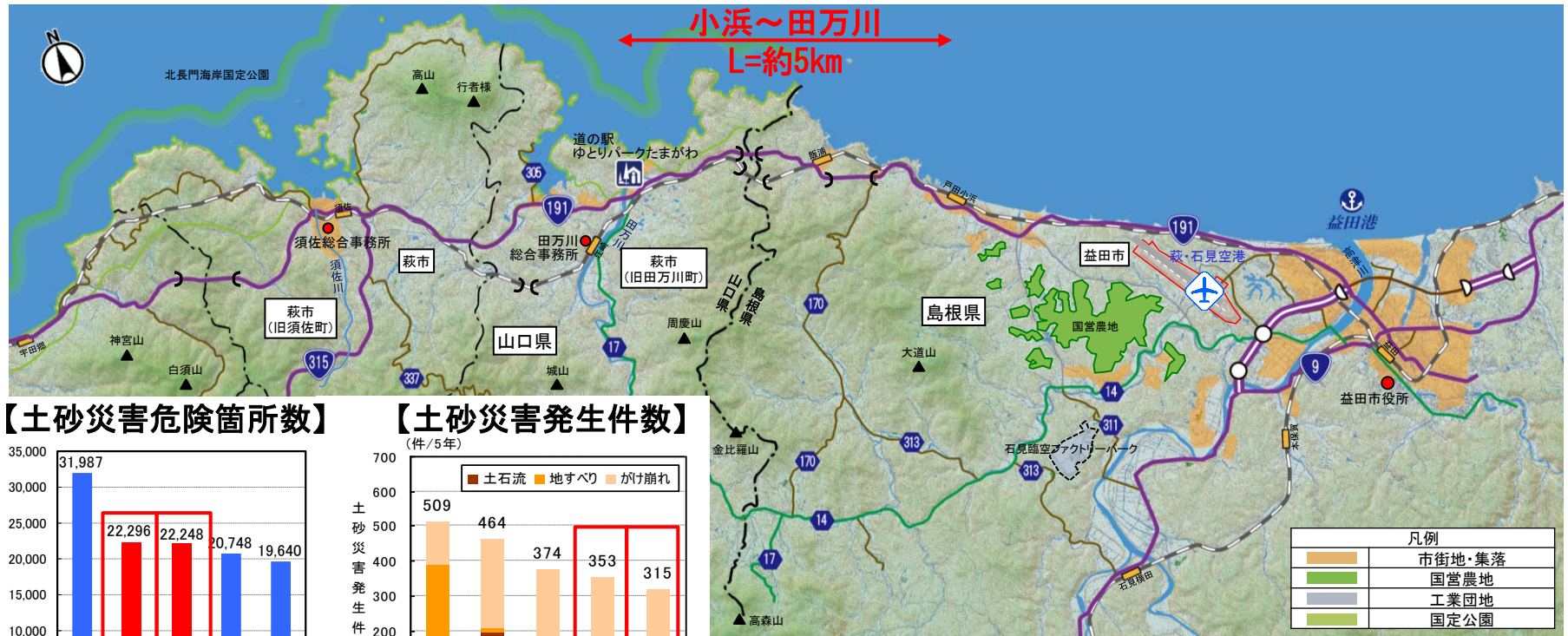
【高齢者人口と高齢化率の推移】



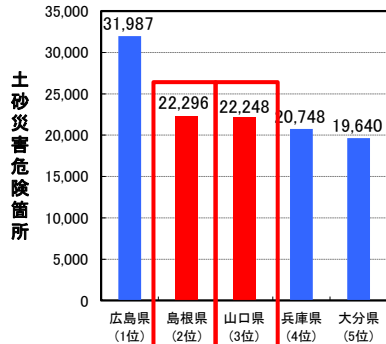
資料：【実績値】H22国勢調査、【予測値】日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

2. 地域の概況（土地利用）

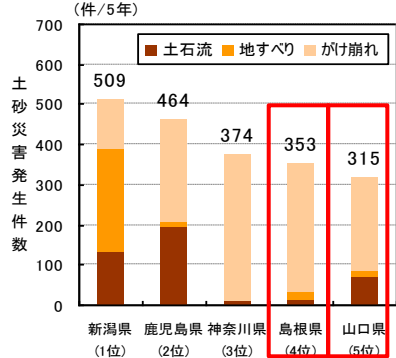
- 小浜～田万川周辺は、益田市、萩市の旧田万川町、旧須佐町に位置し、それぞれ高津川、田万川、須佐川の河口付近に広がる平地に市街地が形成。山口県側の海岸線沿いは北長門海岸国定公園に指定されている。
- 市街地周辺は山に囲まれており、市街地間を結ぶ国道やJR等の交通基盤は県境部で山間の谷部を縫うようにトンネル等通過しており、益田市側の一部区間は海岸沿いを通過している。
- 国道191号の県境部付近は山間を通過しているため、土砂災害が発生しやすい地質的リスクを抱えている。
- 益田市の丘陵地には国営総合農地開発による大規模な農場が整備されている。



【土砂災害危険箇所数】



【土砂災害発生件数】



※土砂災害危険箇所：土泥石流危険箇所等、急傾斜地崩壊危険箇所等、地すべり危険箇所の合計値

※土泥石流危険箇所等、急傾斜地崩壊危険箇所等はH14公表値

※地すべり危険箇所はH10公表値

資料：[都道府県別土砂災害危険箇所] 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部

※H20～H24合計値

資料：[近年の都道府県別土砂災害発生状況]

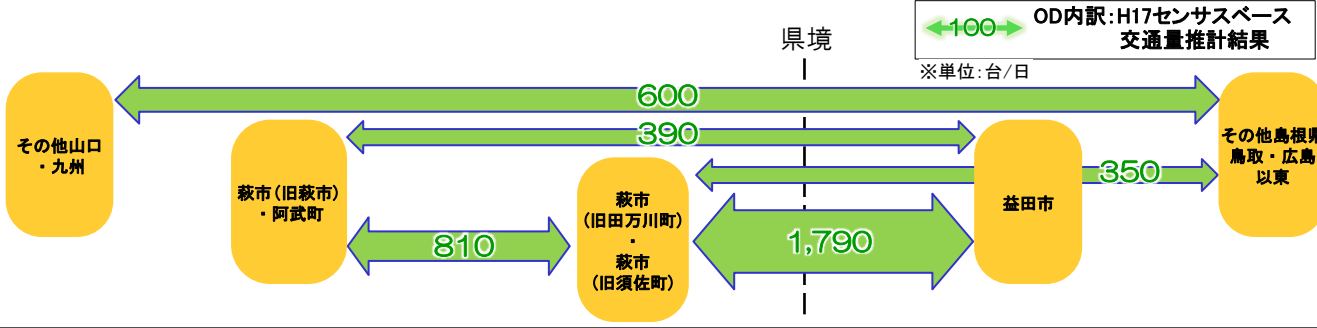
国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部

2. 地域の概況（交通流動）

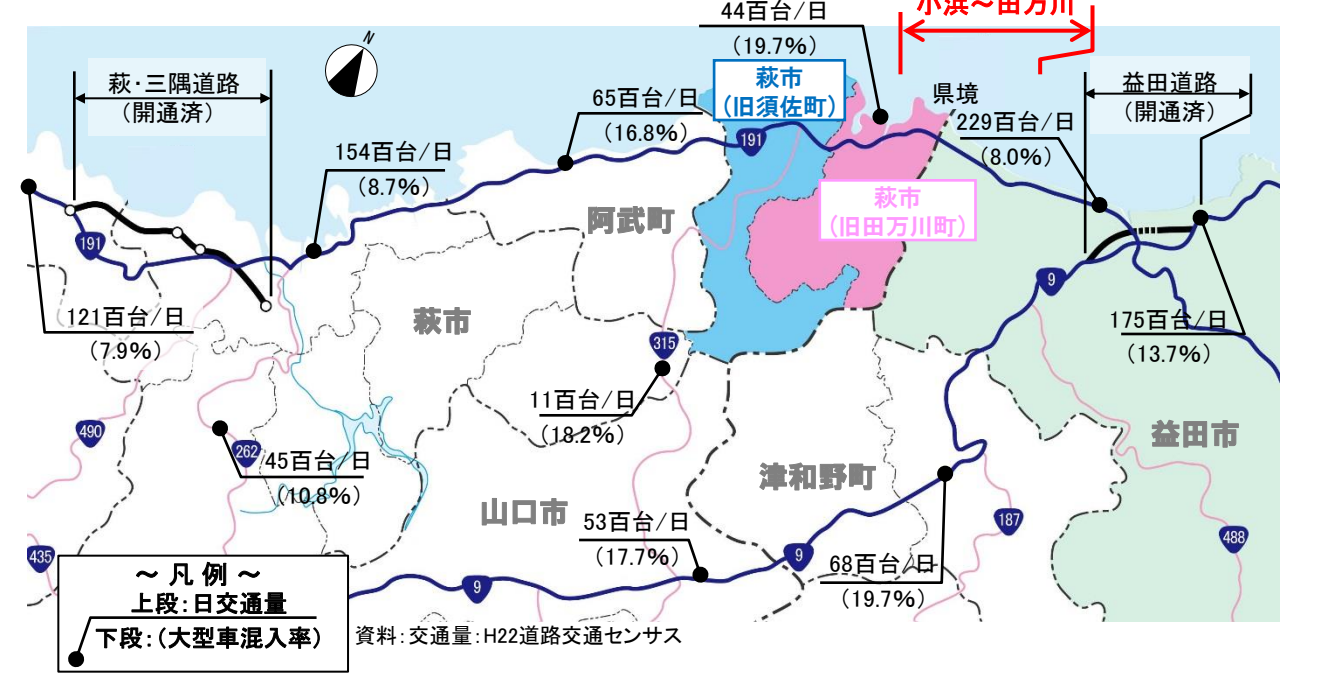
○国道191号の県境部付近では旧田万川町・旧須佐町と益田市間の移動や益田市以東と萩市以西の広域的な利用が多い。

○旧田万川町や旧須佐町は通勤通学、買物において益田市方面への流動が多い。

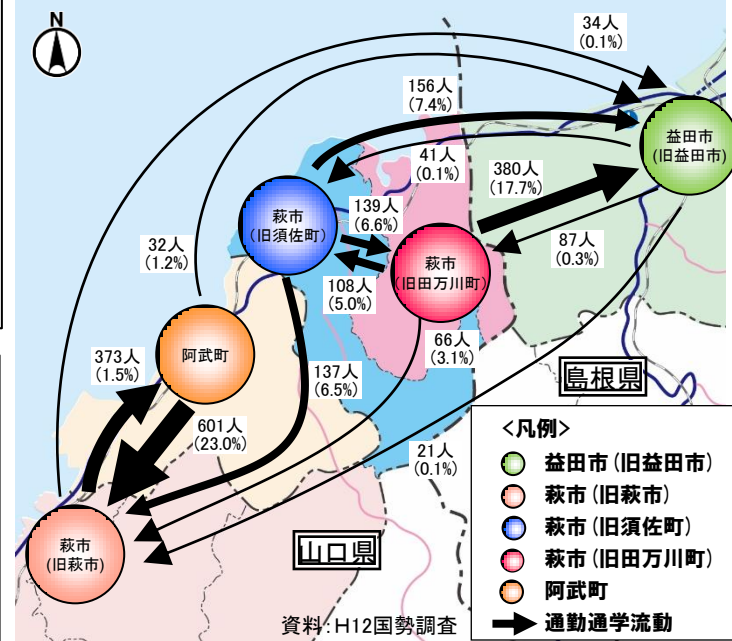
【県境部及び萩市(旧田万川町)・萩市(旧須佐町)の利用OD内訳】



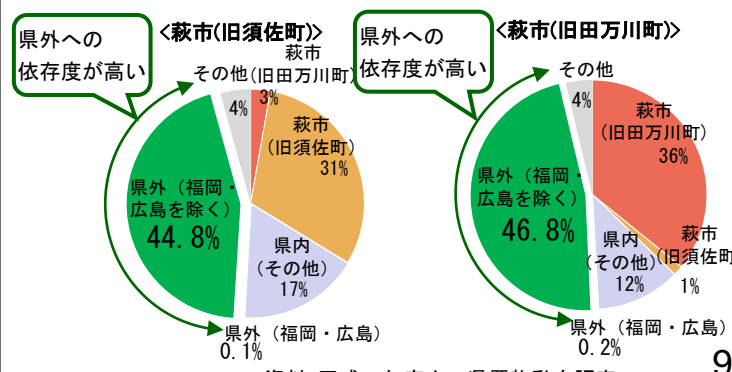
【周辺の交通量と大型車混入率】



【通勤通学流動】



【買物】(買物購入金額比率)

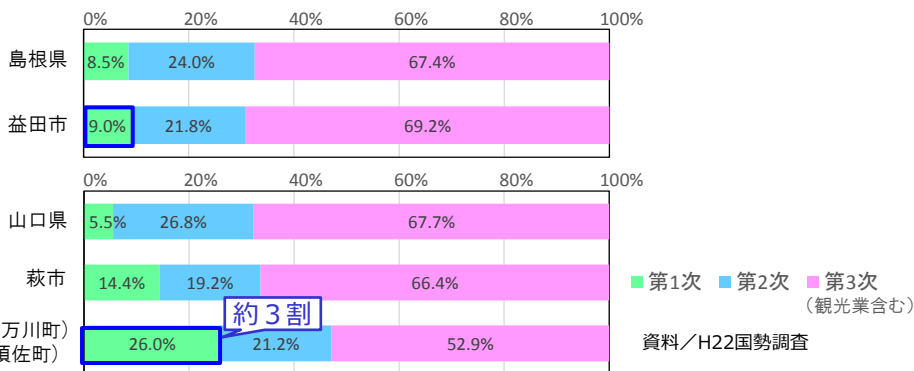


2. 地域の概況（産業）

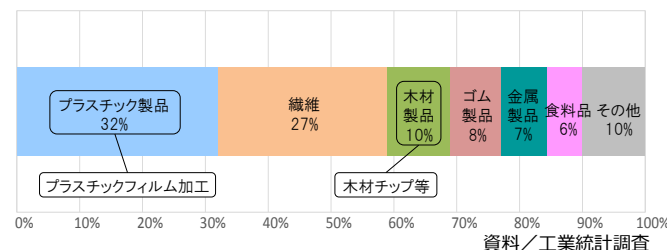
- 就業者数の産業別構成比は、益田市は島根県全体と比べて同等である。旧田万川町・旧須佐町は第1次産業の割合が約3割と山口県全体に比べ高い。
- 益田市の産業別特化係数は農業・林業が高く、旧田万川町・旧須佐町は農業・林業・水産業が高い。
- 益田市の製造品出荷額の内訳はプラスチック、繊維、木材製品の割合が高い。
- 益田市の農業総生産額は県内3位で、その内畜産が約5割、野菜・果樹が約3割を占める。

【益田市・萩市(旧田万川町)・萩市(旧須佐町)における産業の状況】

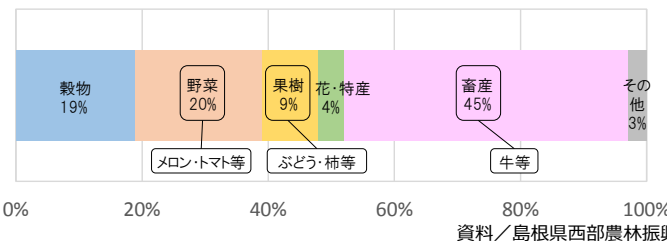
【就業者数の産業別構成比】



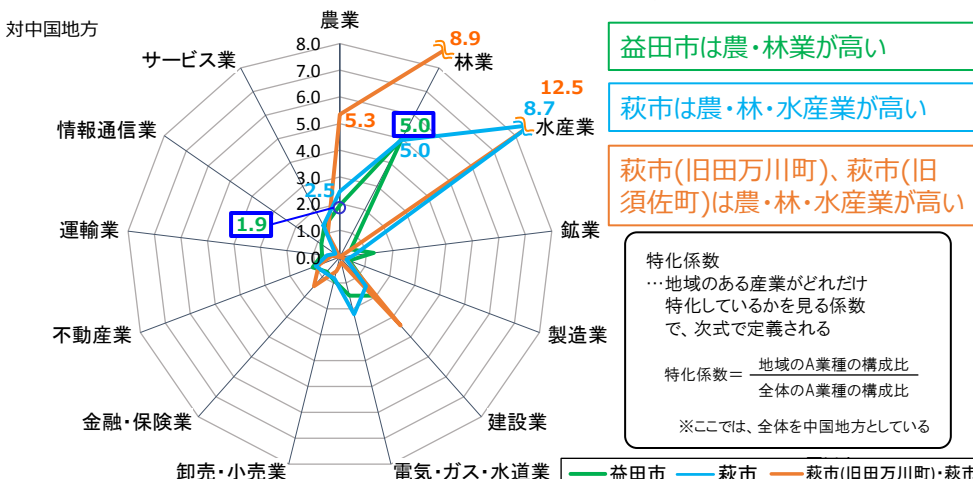
▼ 益田市の製造品出荷額の内訳 (H26)



▼ 益田市の農業産出額の内訳 (H26)

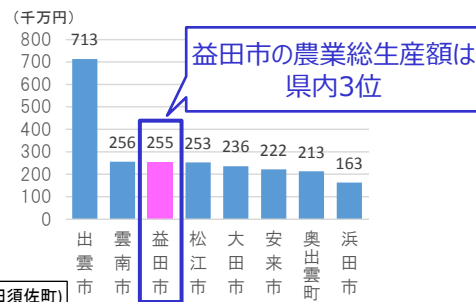


【益田市・旧田万川町・旧須佐町における産業別特化係数】

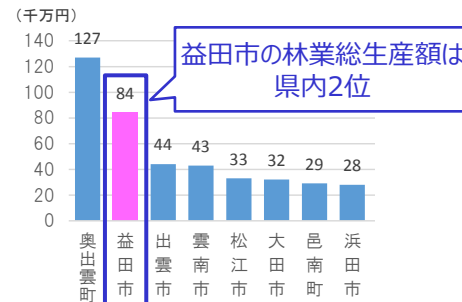


【主要産業の県内の位置づけ】

▼ 農業総生産額（島根県）



▼ 林業総生産額（島根県）



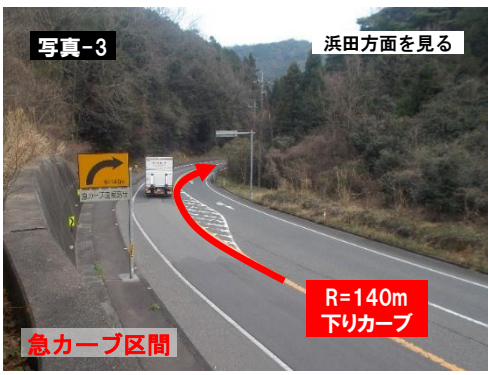
益田市：島根県市町村経済計算（平成24年度）を基に算出 萩市：山口県経済活動別市町内総生産（平成24年度）を基に算出 萩市(旧田万川町)・萩市(旧須佐町)：山口県経済活動別市町村内総生産（平成15年度）を基に算出（※中国地方の構成比は上記とあわせH24とした）

3. 道路の状況と課題

3. 道路の状況と課題

1) 構造不良

- 当該区間の県境付近には急カーブ、急勾配区間が存在し、安全・快適な走行を阻害している。
- また、トンネル内は歩道が整備されていないため、歩行者・自転車の安全が確保できていない。



3. 道路の状況と課題

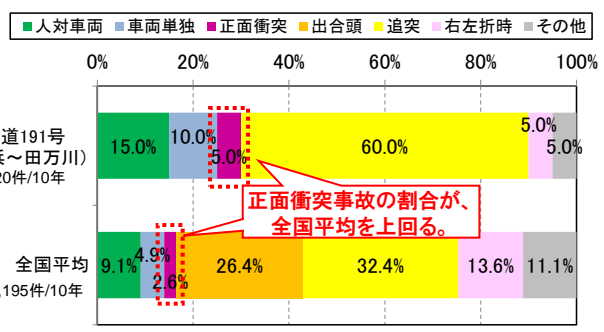
2) 事故

- 重大事故につながる正面衝突事故の割合が全国平均を上回っている。
- トンネル内やカーブでの事故が多く、全体の約7割を占めており、トンネル内では全面通行止めが発生している。

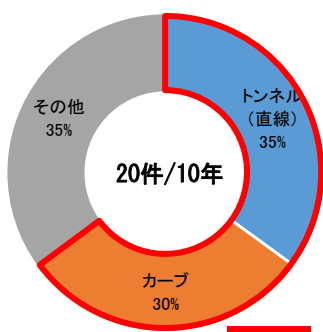


【国道191号(小浜～田万川間)で発生した事故の状況】

▼ 事故類型の全国平均との比較



▼ 事故発生箇所



▼ 小浜～田万川間の事故による全面通行止め履歴 (H16～H25)

発生年度	件数	全面通行止め時間
H17	1	3時間
H19	1	1時間
H25	1	15時間
合計	3	19時間

約7割

資料) 国道191号: 交通事故総合データベース (H16～H25)
全国平均: 警察庁交通局データ (H16～H25)

3. 道路の状況と課題

3) 災害① ～過去の大規模災害（昭和47年7月、昭和58年7月）～

- 当該地域において、過去より災害が発生。昭和58年7月には、集中豪雨に伴う甚大な被害が発生。国道191号で、全面通行止めが9箇所発生し、5日間通行が遮断された。
- その後、当該地域において高津川の堤防整備、田万川の局部改良、ハザードマップ作成等の防災対策を実施。

【昭和58年7月災害による通行止め発生箇所（益田以西）】

【過去の大規模災害】



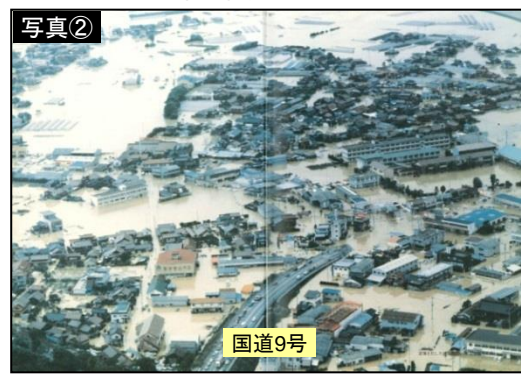
発生日	発生原因	主な被災地	被害状況（島根県）	
昭和47年7月	梅雨前線	島根県全域	死者26名 浸水家屋38,294棟	全壊家屋559棟 流出家屋95棟
昭和58年7月	梅雨前線	島根県全域 (特に県西部)	死者行方不明者107名 浸水家屋18,216棟	全壊家屋1,372棟 流出家屋308棟

資料：「高津川の主な災害」(国土交通省水管理・国土保全局)

小浜地区被災状況(S58.7)



益田市市内被災状況(S58.7)



須佐地区被災状況(S58.7)



益田市角井地区被災状況(S58.7)



資料：「昭和五十八年七月豪雨災害誌」(建設省中国地方事務所)
「昭和五十八年七月豪雨災害の記録」(島根県)

3. 道路の状況と課題

3) 災害② ～平成25年7月災害～

- 国道191号沿線には要防災対策箇所、土砂災害警戒区域、洪水時浸水想定区域が存在。
- 平成25年7月の豪雨災害時には、冠水により萩市下田万で約9時間の全面通行止めが発生。



▲被災状況 (H25.7.28)



▲被災状況 (H25.7.28)

【平成25年7月災害の影響 (H26年度優先区間絞り込み時ヒアリング調査)】

- 【益田市の製造業者】
通行止めが多く発生したため、**大幅な迂回**や荷物を途中まで取りに行く**中継輸送**などで対応した、災害に強い道路の必要性を痛感した。
- 【益田市のバス会社】
迂回路がない為、**運行を休止**した。
- 【益田市の小売業者】
配送中に田万川で通行止めを遭い、**徒歩で配達**した。
- 【萩市の小売業者】
須佐方面からは通行止めの影響により、**売上げが減少 (2割強)**した時期があった。

3. 道路の状況と課題

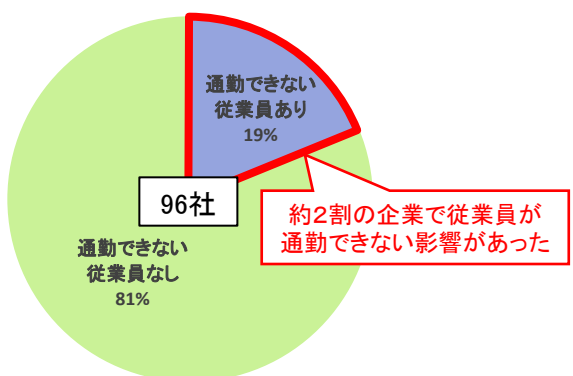
3) 災害② ～平成25年7月災害～

- 平成25年7月の豪雨災害時には、石見臨空ファクトリーパークや益田市内の企業において旧田万川町、旧須佐町に居住する多くの従業員が通勤できない状況であった。
- アンケート調査では約2割の企業が操業に影響が出たと回答。通常営業に戻るまで10日間を要した企業もあった。

【平成25年7月災害の通勤への影響（益田市内立地企業アンケート）】

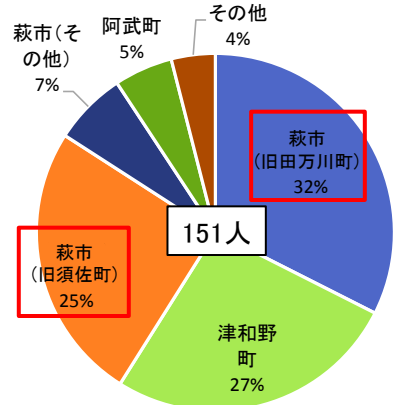
■操業への影響
 82社※のうち約2割（14社）の企業が操業に影響ありと回答 ※無回答14社除く

▼通勤できなかった従業員がいた企業の割合



資料) 平成25年9月企業アンケート調査結果

▼通勤できなかった人の居住地



資料) 平成25年9月企業アンケート調査結果

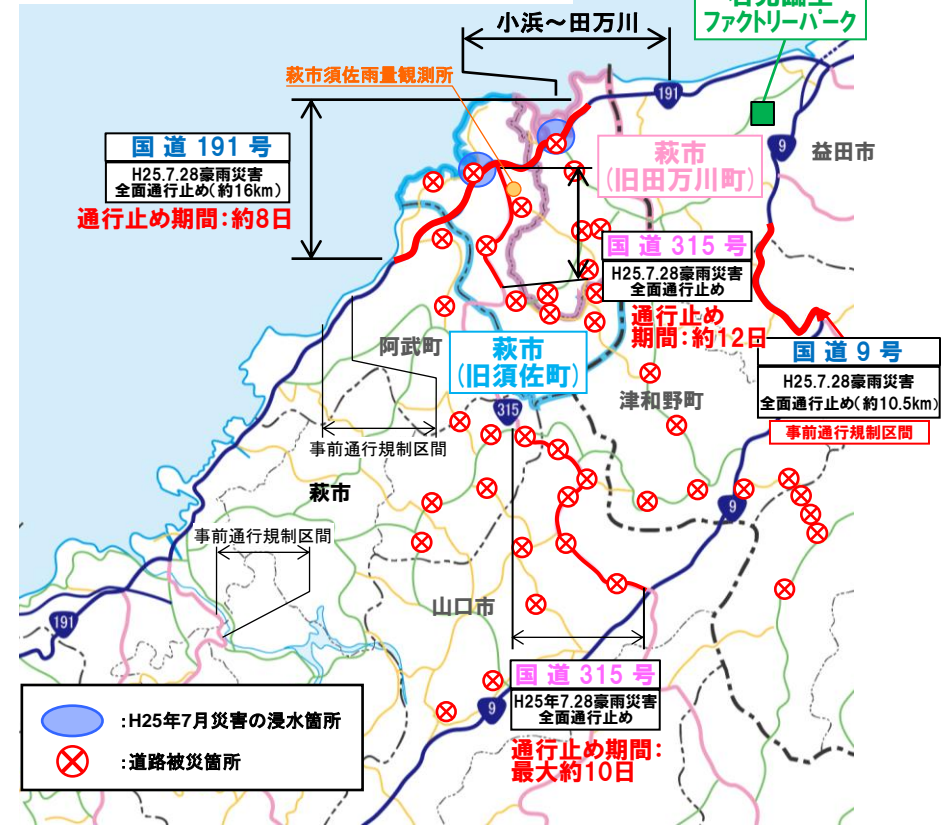
【平成25年7月災害の石見臨空ファクトリーパーク立地企業への影響（立地企業の声）】

(通勤への影響)
 ○7/28は日曜日であったが、週明けの7/31以降も影響があり、お盆まで通勤できない従業員もいた。最も遅くまで出社できなかったのは8/23までであった。
 ○通勤ルートは、一度山口市方面に迂回して国道9号を通過して通勤したため、4時間前後の遅れとなった。

(操業への影響)
 ○従業員が出社できなかったため、通常営業に戻るまで10日程度かかった。
 ○社員の遅刻や休みが出たことで、作業の段取り時間や他の社員の作業負担が増加。
 ○災害が平日であった場合、かなりの影響があったと思われる。

資料) 平成25年9月～10月ヒアリング結果

【平成25年7月災害による通行止め発生箇所】



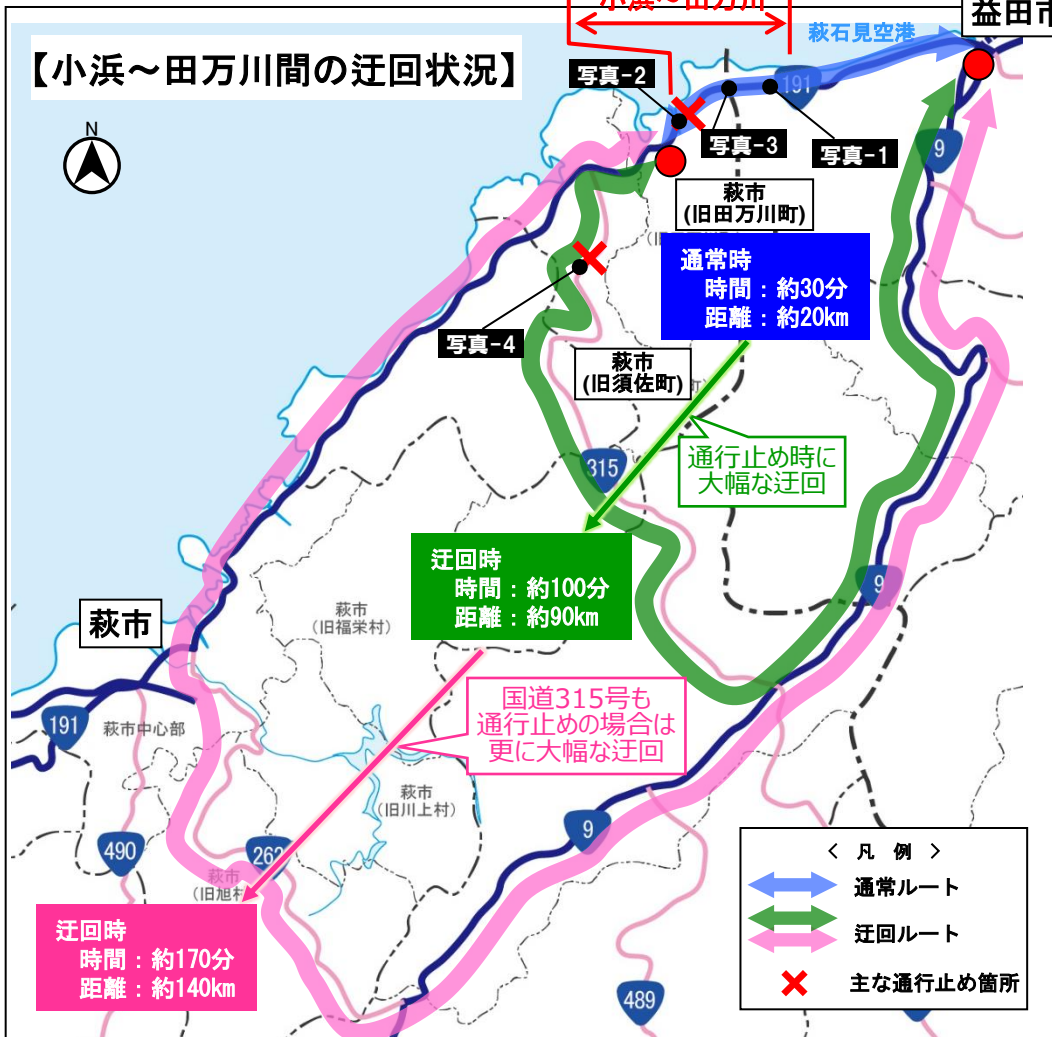
平成25年7月28日の気象状況

山口県付近には発達した雨雲が次々と流れ込み、北部や中部の一部で猛烈な雨となった。
 各観測所の観測史上最大を記録。(萩市須佐の3時間雨量(301.5ミリ))

3. 道路の状況と課題

4) 迂回路

- 当該区間の国道191号には代替路が無く、通行止めが発生した場合、大幅な迂回を強いられる。
- 平成25年7月28日の豪雨災害時には、国道191号の小浜～田万川間に加え、国道315号が通行止めとなったため、通常時に比べ5倍以上もの大幅な迂回となった。



▲ 事故発生状況



▲ 災害発生状況 (H25.7.28)



▲ 事故発生状況



▲ 国道315号金山谷トンネル (H25.7.28)

【道路利用者の声 (H26年度優先区間絞り込み時ヒアリング調査)】

- 【警察署】
災害発生時における**代替交通路の確保が必要**。
- 【小売業者】
人形峠のトンネル付近での**事故通行止めなどの影響**がある。
- 【バス会社】
山陰道が整備されれば、**災害時の代替経路**にもなり、生活路線が確保できる。

【道路利用者の声 (H25.9 アンケート調査結果)】

- 【物流事業者】
国道191号通行止の場合迂回路で国道315号を通るが、国道315号の場合は**遅れ**が生じ、国道9号の場合は**更に大幅な遅れ**が生じる。国道191号(益田⇄萩間)の整備を強く希望する。

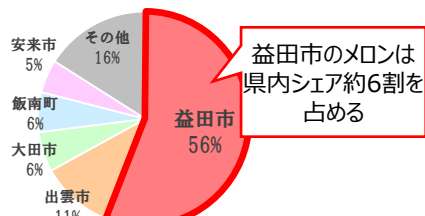
※H22道路交通センサス混雑時旅行速度を用い算出

4. 地域の状況と課題

4. 地域の状況と課題 ～農業（農産品）～

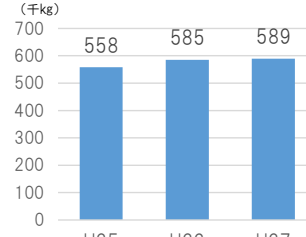
- 益田市は平野部では農業が盛んであり、特に国営総合農地開発事業により開発された420haの広大な国営農地において、果樹、野菜、畜産等が、企業体等により大規模に展開されている。
- 特産品であるメロンは県内出荷額の約6割、ぶどうは約2割を占め、益田市では更に、産地の拡大、益田産品のブランド化を図る特産品創出を進めている。
- 萩市においても、旧田万川町の特産品である桃は、県内で約8割のシェアを占めている。
- これらの農作物は全国に出荷されており、特に益田市のぶどうは県外への出荷が約4割でほぼ全て九州方面に出荷されている。
- 生鮮品であるため、輸送の速達性が重要であり、輸送時間の短縮による更なる販路拡大が課題である。

▼ 特産品の出荷額の県内シェア



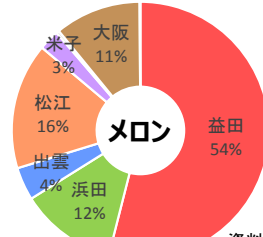
益田市のメロンは県内シェア約6割を占める

▼ 益田市のメロン出荷量推移 (千kg)



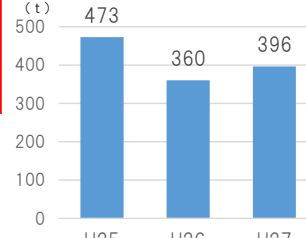
資料: H28JALまね西いわみ提供

▼ H27益田市のメロンの地域別出荷先



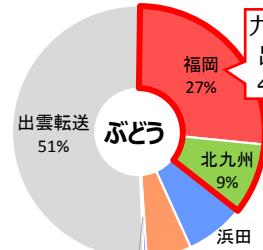
資料: H28JALまね西いわみ提供

▼ 益田市のぶどう出荷量推移 (t)



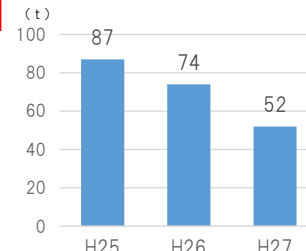
資料: H28JALまね西いわみ提供

▼ H27益田市のぶどうの地域別出荷先



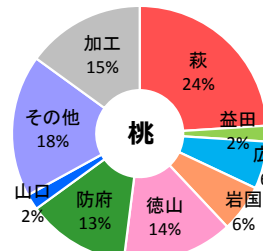
資料: JALまね西いわみ提供

▼ 萩市の桃出荷量推移 (t)



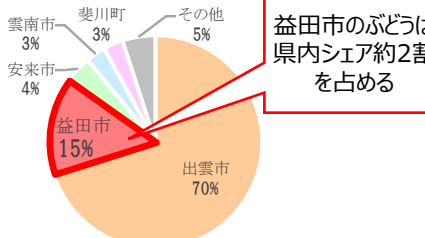
資料: H28JAあぶらんど萩提供

▼ H27萩市のももの地域別出荷先



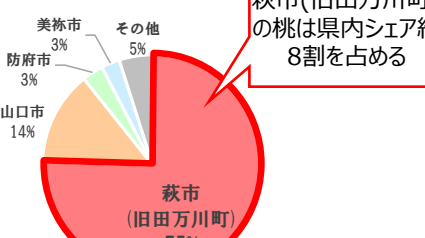
資料: H28JAあぶらんど萩提供

▲ メロン



益田市のぶどうは県内シェア約2割を占める

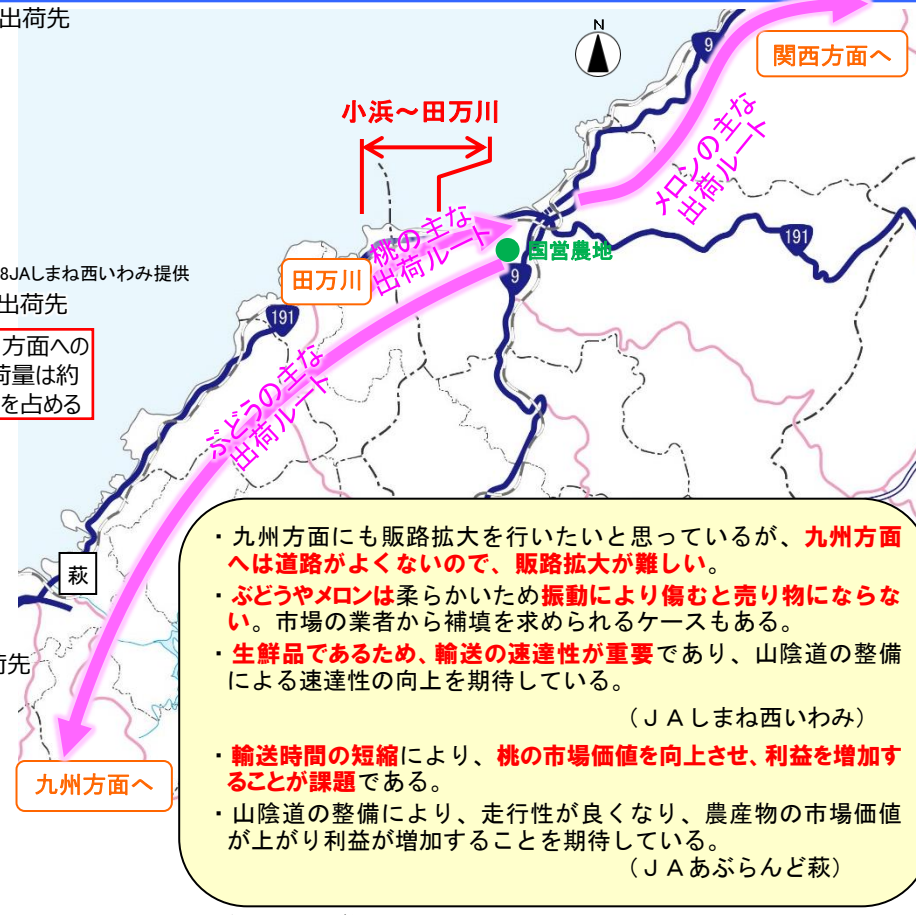
▲ ぶどう



萩市 (旧田万川町) の桃は県内シェア約8割を占める

▲ 桃

資料: H18作況調査(ぶどう、メロン)、H15作況調査(桃)



- ・九州方面にも販路拡大を行いたいと思っているが、九州方面へは道路がよくないので、販路拡大が難しい。
- ・ぶどうやメロンは柔らかいため振動により傷むと売り物にならない。市場の業者から補填を求められるケースもある。
- ・生鮮品であるため、輸送の速達性が重要であり、山陰道の整備による速達性の向上を期待している。

(J A しまね西いわみ)

- ・輸送時間の短縮により、桃の市場価値を向上させ、利益を増加することが課題である。
- ・山陰道の整備により、走行性が良くなり、農産物の市場価値が上がり利益が増加することを期待している。

(J A あぶらんど萩)

資料: ヒアリング結果 (H28.5JAあぶらんど萩、H28.5JALまね西いわみ)

4. ～国営農地～ <参考>

- 益田市にある県内最大の広大な国営農地では、ケール、ぶどう、柿などが栽培されている。
- 国営農地の利用は約9割を越え、益田市の農業粗生産額の1割を占める。

【国営農地開発事業】

- ・旧農林省が食料自給率アップと農業の大規模化を目的に、1970年代から30年続けた農地造成
- ・事業費負担金は国が70～80%、都道府県が10～25%、市町村と農家が各3～5%
- ・事業化は全国で176地区、島根県内では3地区
- ・益田地区は、約420haと県内最大の農地開発で、主な作物は果樹（125ha）、野菜（53ha）、ケール（75ha）
- ・個別経営が主体であるが、株式会社、合同会社、農業法人などの組織体10社も参入

【島根県内の国営農地】

地区名	所在市町	事業完了	造成面積
横田地区	奥出雲町	H8年度	370.8ha
大邑地区	大田市、美郷町	H5年度	220.7ha
益田地区	益田市	S63年度	421.8ha(農地開発) 194.7ha(区画整理)

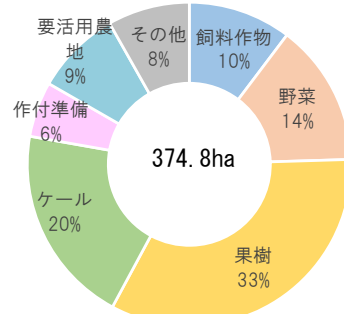


▲ケール(青汁の材料)

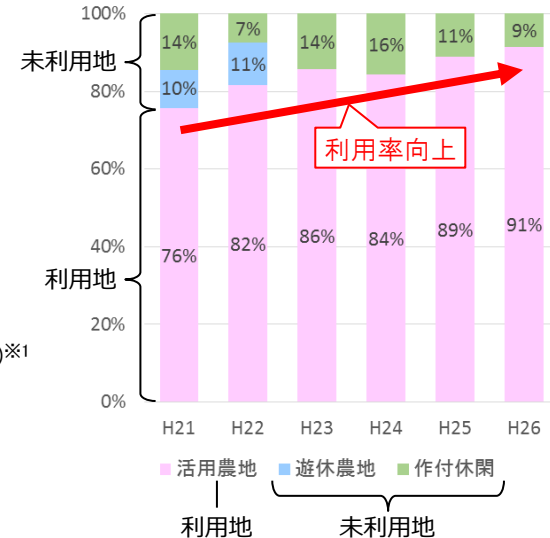
▲ぶどう

▲西条柿

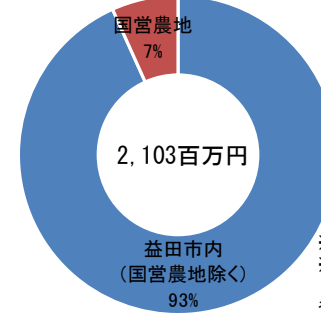
▼作物の作付状況 (H26)



▼開発地の利用状況の推移



▼益田市の農業粗生産額※2 (H26)※1



※1集計対象はJAのみ
 ※2農業生産によって得られた農畜産物と、その農畜産物を原料として作られた加工農産物を販売して得た利益額
 資料) 益田市調べ

【参入企業・法人の声 (H25年度ヒアリング結果)】

【ぶどう園】

東京及び九州を主体としてぶどうを出荷している。
 出荷用の箱や包装関係及び肥料関係などは九州方面から入荷している。

【加工食品製造業者】

規模の拡大戦略に基づき入植した。拡大戦略を持続する予定であり、場合によっては九州への市場も拡大を考えている。
 益田～萩間に高速道路が整備されれば所要時間短縮に伴い取引業者の拡大が可能となる。

4. ～ブランド化～ <参考>

○島根県では「美味しまね認証制度」、益田市では「益田ブランド認証制度」を実施して、地域を代表する商品、特産品、製品などのブランド化により、地域産品の流通拡大、地域産業の活性化を図っている。

【美味しまね認証制度】

島根県において農林水産物とその加工品の販路と消費を拡大させ、県産品の振興を図るため、農林水産部、商工労働部の共管組織*として「しまねブランド推進室」を平成14年4月に設置し県産品のブランド戦略を進めている。

また、平成21年より美味しまね認定制度もスタートしている。

※複数の行政機関がともに所轄する業務

【特産品の高付加価値化の推進】

益田市では地域特性を活かした特産品の開発や農林水産物の産地化を進め、益田産品のブランド化を図ることで付加価値の高い産品として販売し、所得の向上と経営の安定化を図っている。

【メロン】



【デラウェア】



事例：美味しまね認証制度

主体：島根県

目的：島根県独自の基準で一定の基準を管理することで、優れた品質と独自性をアピールして販売の拡大につなげていくこと

運用：平成21年度開始

認定：松永牧場の肥育牛等全34品

【肥育牛/松永牧場】



資料) 島根県HP

事例：益田ブランド認証制度

主体：益田市

目的：市全体のイメージアップを図るとともに、生産者の意欲向上及び地域産品等の外貨獲得や流通拡大、地域産業の活性化を図ること

運用：平成20年度開始

認定：葡萄ジャム等全15品

【葡萄ジャム】



【マルシンのだしぼん】

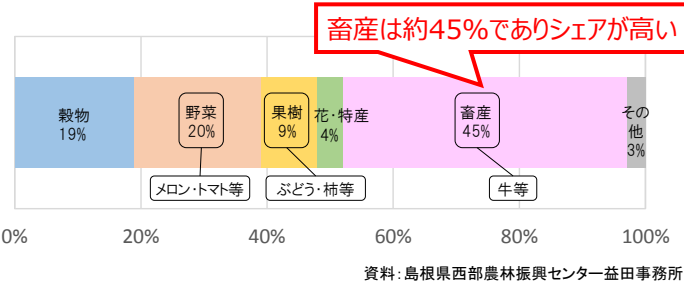


資料) 益田市HP

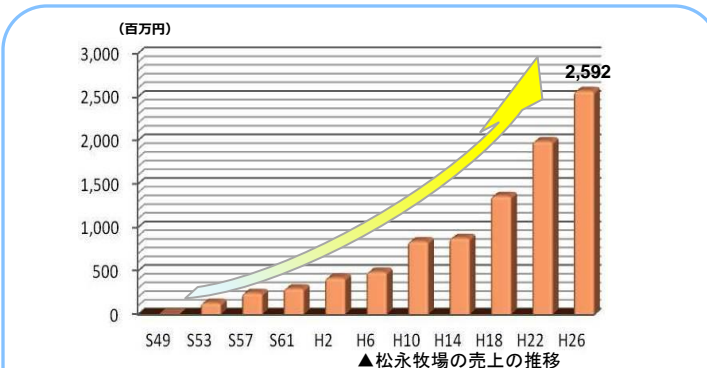
4. 地域の状況と課題 ～農業（畜産）～

- 当該地域には県内有数の肉用牛繁殖肥育を一貫経営している牧場があり、ブランド牛「まつなが牛、石見牛」として関東（銀座）にも出荷するなど、売り上げも年々増加している。
- 肥育牛の飼料として、大部分を山口県の下関港等から輸入、国道191号で毎日コンテナ輸送をしているが、災害時には通行止めにより、飼料が底をつくなど危機的な状況に陥る事態が発生している。
- 飼料の安定調達のための代替性の確保や、広島・近畿・関東方面へ出荷している肥育牛や牛乳の更なる販路の拡大のため、輸送効率を向上することが課題。

【益田市の農業産出額の内訳（H26）】



【松永牧場における入出荷経路】



事業者
(ヒアリング/松永牧場)

・浜田道の開通後、安心・安全な高速道路の利用により取引増加に繋がっています。

・一方、**国道191号の通行止め時は飼料が底をつき危機的な状況になり災害時の代替性**や輸送効率向上のため、早期の高速道路整備を期待します。

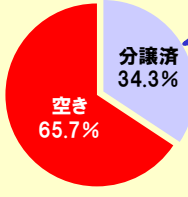
4. 地域の状況と課題 ~企業立地~

- 山陽道、中国道や山陰道の既開通区間などの高速道路周辺には、工業団地が多数立地しているが、益田・萩地域は高速道路へのアクセス性が悪く、石見臨空ファクトリーパークの1箇所のみ。
- 全国的に有名な青汁を生産するメーカーが立地しており、原材料や製品の入出荷で九州方面との結びつきが強い。
- 益田市において、企業集積拠点と位置付けた産業支援センターを設置し、企業立地強化支援を行っているが、輸送コストなどが課題となっている。

【山口県、島根県、広島県の工業団地の整備状況】

石見臨空ファクトリーパークの状況

全体42.8ha
うち9社立地
分譲済：14.7ha



資料：(工業団地分譲率)島根県 商工労働部 企業立地課調べ (H27.3.31時点)

業種	主な取引先
① 電子部品製造業	関西
② 清涼飲料製造業	福岡
③ 建設用金属製品製造業	大阪、広島
④ 電子部品製造業	出雲、東京
⑤ 菌茸製造	大阪、山口、北九州
⑥ プラスチックフィルム加工	京都、滋賀
⑦ 精密機械工具・作業工具製造	愛知
⑧ 省力機械他各種機械設計製作	全国
⑨ 木材チップ業	浜田、江津

■：九州地域と取引している企業

益田萩間には、1箇所(石見臨空ファクトリーパーク)のみ。

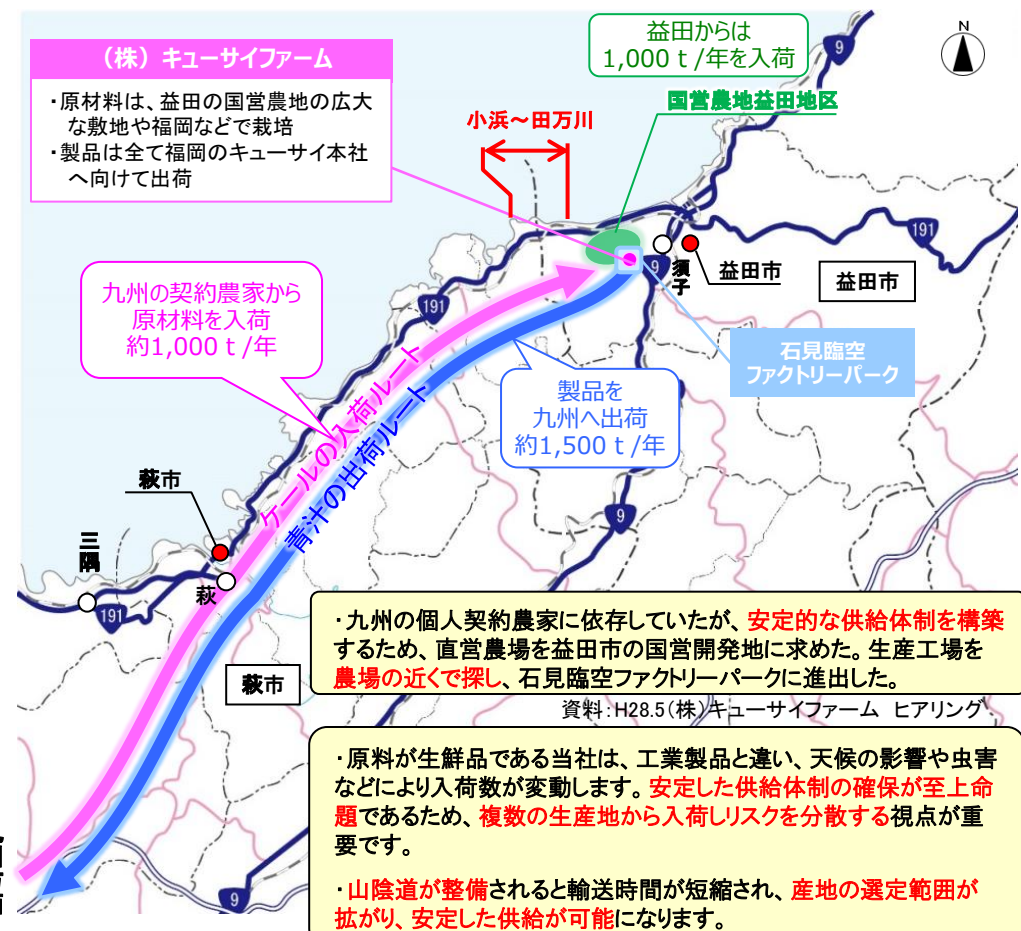
石見臨空ファクトリーパーク



資料：H27産業用地ガイド 財)日本立地センター

・愛知県の製造業と交渉した際に、「石見臨空ファクトリーはBCPの観点では問題ないが、輸送コストが最大のネック」と言われています。複数視察の後、高速道路近傍の工業団地へ進出したそうです。(益田市産業支援センター)

【ケール・青汁に関する九州方面との物流】



(株)キューサイファーム

- ・原材料は、益田の国営農地の広大な敷地や福岡などで栽培
- ・製品は全て福岡のキューサイ本社へ向けて出荷

益田からは1,000 t/年を入荷

国営農地益田地区

小浜～田万川

九州の契約農家から原材料を入荷 約1,000 t/年

製品を九州へ出荷 約1,500 t/年

・九州の個人契約農家に依存していたが、**安定的な供給体制を構築**するため、直営農場を益田市の国営開発地に求めた。生産工場を**農場の近くで探し**、石見臨空ファクトリーパークに進出した。

資料：H28.5(株)キューサイファーム ヒアリング

・原料が生鮮品である当社は、工業製品と違い、天候の影響や虫害などにより入荷数が変動します。**安定した供給体制の確保が至上命題**であるため、**複数の生産地から入荷リスクを分散する**視点が重要です。

・**山陰道が整備**されると輸送時間が短縮され、**産地の選定範囲が拡がり**、**安定した供給が可能**になります。

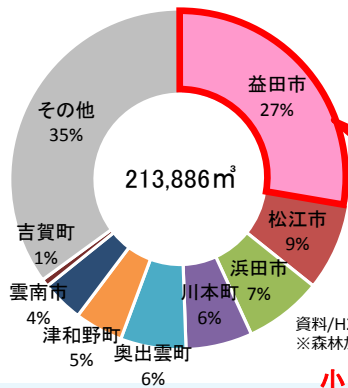
資料：(株)キューサイファーム

4. 地域の状況と課題 ～林業～

- 益田市の林業の素材生産量は県内シェア約3割を占めており、益田市周辺で生産された木材は市内で建築材やチップに加工され、各地へ出荷されている。
- 島根県の「森林と林業・木材産業の長期ビジョン」では、バイオマス発電推進による燃料チップの需要増加が見込まれており、益田市ではチップの生産拡大を図っている。
- 益田市の木材・木製品関連企業の取引先は、九州・山口の西方面が約2割を占め、国道191号が出荷経路となっている。

【木材関連の入荷ルート】

＜島根県の木材の素材生産量※のシェア＞



益田市は
県内シェア約3割を
占め林業が盛ん

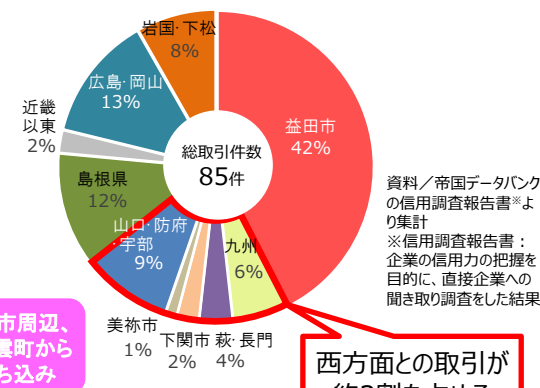
資料/H22農林業センサス
※森林から丸太を生産する林業の作業



▲原木の運搬

【木材関連の出荷ルート】

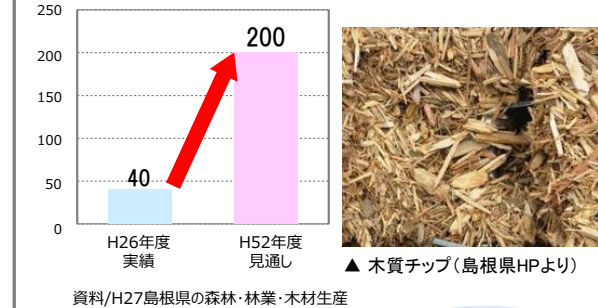
＜益田市の木材・木製品関連企業の地域別取引先＞



資料/帝国データバンクの信用調査報告書※より集計
※信用調査報告書：企業の信用力の把握を目的に、直接企業への聞き取り調査をした結果

西方面との取引が
約2割を占める

＜島根県産の燃料チップ用原木の供給の見通し＞



▲木質チップ(島根県HPより)

資料/H27島根県の森林・林業・木材生産



資料:H27.11ヒアリング結果



資料:H27.11ヒアリング結果

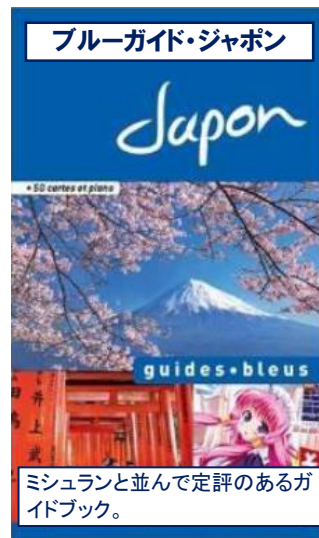
4. 地域の状況と課題 ～観光①～

- 小浜～田万川周辺地域には益田(観光客数:98万人)、津和野(同:120万人)、萩(同:200万人)の主要な観光地が存在。
- 津和野町はH27の日本遺産の認定やフランスの「ブルーガイド・ジャポン」に掲載されるなど注目の高い地域である。また、外国人観光客数は増加しているものの、全体の観光客数は横ばい傾向。

【益田市～萩市間の観光状況】



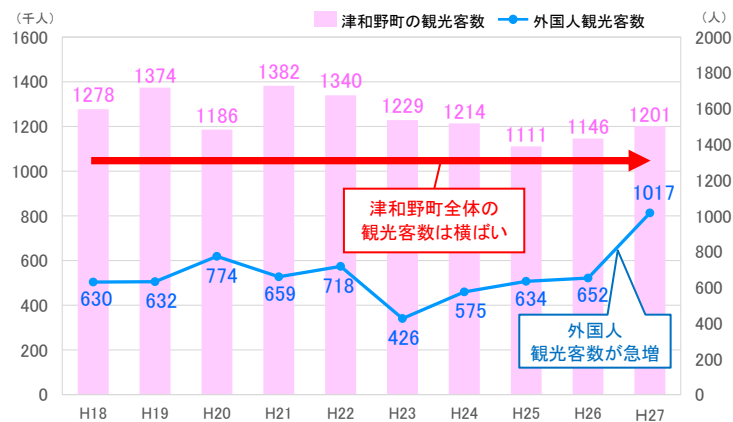
【津和野町の観光動向】



<観光に関する声(H28年度ヒアリング調査)>

- ・平成27年の日本遺産認定以降、「ブルーガイド・ジャポン」に掲載された事などもあり、外国人観光客が増加している。
 - ・外国人観光客が増えている現状と、日本遺産による効果を結びつけ誘客を進めたい。
 - ・山陰道などの道路ネットワークの整備が進めば、より移動が快適になり、萩・益田(萩・石見空港)・新山口などと合わせた周遊観光が増加し、観光客数・宿泊客数の増加に期待が持てる。
- (津和野町商工観光課)

【津和野町の観光客数の推移】

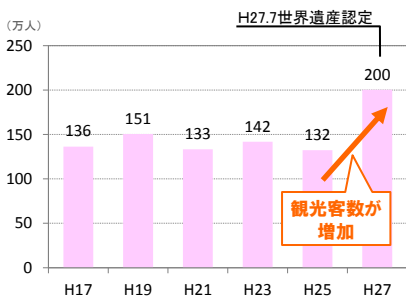


資料: 島根県観光客動態調査

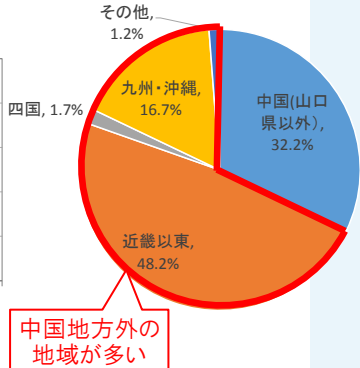
4. 地域の状況と課題 ～観光②～

- 萩市はH27.7の世界遺産登録を機に、観光客数が増加している。
- 萩市へ訪れる観光客は九州や近畿以東からの割合が高く、高速道路やアクセス道路の一体的なネットワーク整備により九州方面からの広域周遊観光の促進が期待されている。
- 一方、「空の玄関口(萩・石見空港)がある益田市」は、中国地方内からの観光客が主であり、「世界文化遺産に登録された明治の産業革命遺産がある萩市」と「日本遺産に認定された津和野町」に隣接するが、広域観光周遊が進まないことが課題。

【萩市の観光客数の推移】



【萩市の県外観光客発地別内訳】



資料:平成26年 山口県観光動態調査

中国地方外の地域が多い



鳥根県西部への更なる回避が課題

【萩～益田間】
所要時間:78分
移動距離:62km

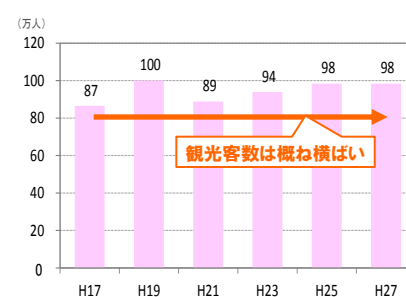
【益田～津和野間】
所要時間:31分
移動距離:23km

【萩～津和野間】
所要時間:74分
移動距離:64km

九州からの観光交流拡大の可能性

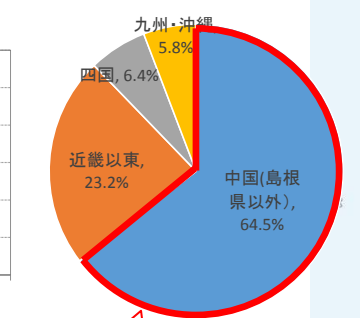
<観光に関する声(H26年度ヒアリング調査)>
・時間的に余裕が出来れば滞在時間が増えると思っている。萩・津和野とトライアングルになると良いと考えているが、現状では移動に時間がかかり、じれったさを感じている。
(益田市商工会議所)

【益田市の観光客数の推移】



【鳥根県西部の県外観光客発地別内訳】

※鳥根県西部:大田市、川本町、美郷町、邑南町、江津市、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町



資料:平成26年 鳥根県観光動態調査

中国地方内の来訪客が多い

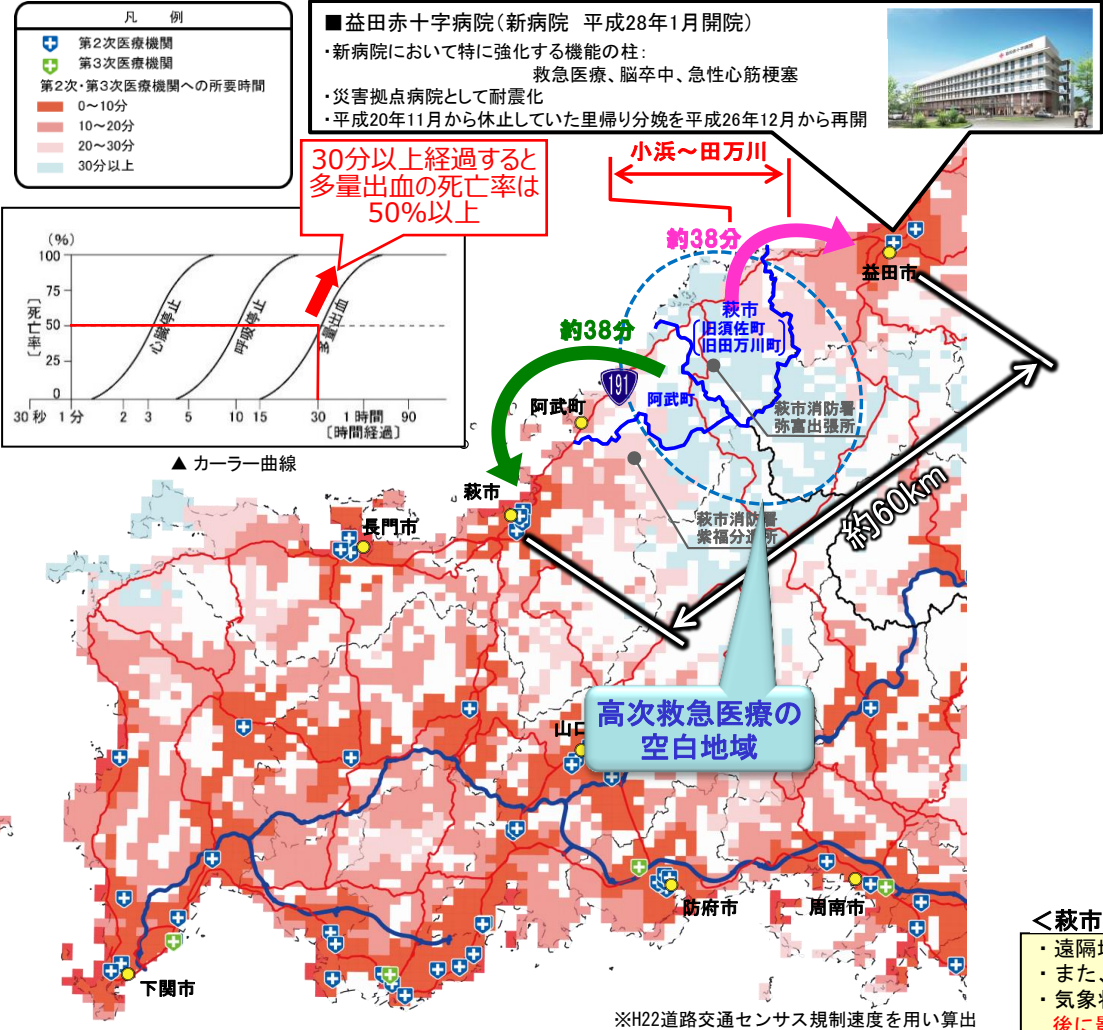
九州

※所要時間算定根拠:H22道路交通センサス混雑時旅行速度を用い、益田市役所～萩市役所間で算出

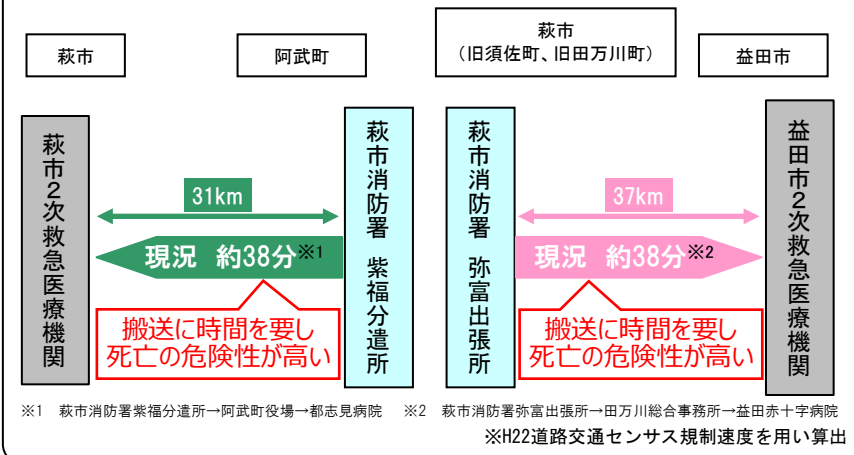
4. 地域の状況と課題 ～医療～

- 益田市から萩市間(約60km)の旧須佐町・旧田万川町及び阿武町には救急搬送に30分以上を要する高次救急医療の空白地域があり、高次医療機関への到達時間の短縮が課題である。
- 県境を跨いだ救急搬送などの広域搬送には国道191号しかなく、災害時等の通行規制時の迂回や急カーブ等により、搬送時の患者への負担も大きい。

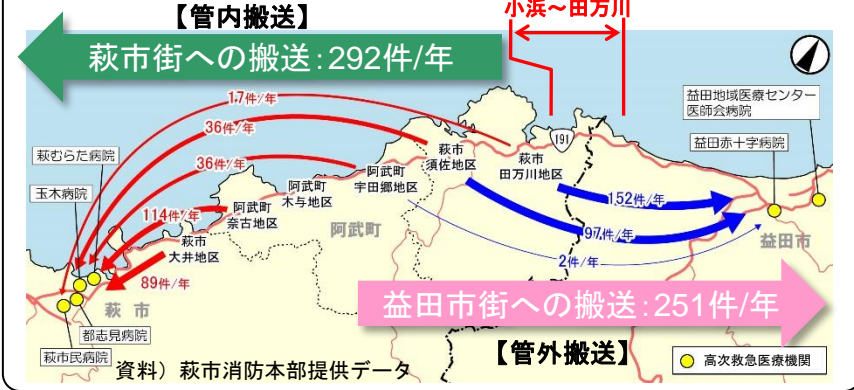
【高次救急医療機関の立地状況】



【高次救急医療機関への搬送時間】



【国道191号経由の救急搬送実態(H27年度実績)】



<萩市消防本部の声(H24年度ヒアリング調査)>

- ・遠隔地での救急事案ではやはり搬送時間が問題となる。
- ・また、急カーブ、道路の段差により脳疾患の傷病者に振動、揺れ等による負担を与えてしまう。
- ・気象状況により、通行規制がかかるため、緊急度の高い患者を搬送する場合、患者の生命や予後に影響を及ぼす可能性がある。

4. 地域の状況と課題 ～地域活性化の拠点（道の駅）～

- 萩市では、道の駅「ゆとりパークたまがわ」を地場産業振興の拠点として位置づけ、農林水産物の展示販売、観光情報の発信を実施。特産直売店の年間売上額は約2億5千万円、来客数は約16万人(H27)であり、主要な観光施設である。
- また、山口県緊急輸送道路ネットワーク計画の防災拠点に位置づけられ、災害時には救援物資等の備蓄・集積拠点として防災上の役割も担っている。
- 萩市では、今後、道の駅の観光拠点、雇用創出、経済活性化機能の充実を図り、地域活性化の拠点として更に発展させる予定。

【道の駅「ゆとりパークたまがわ」】



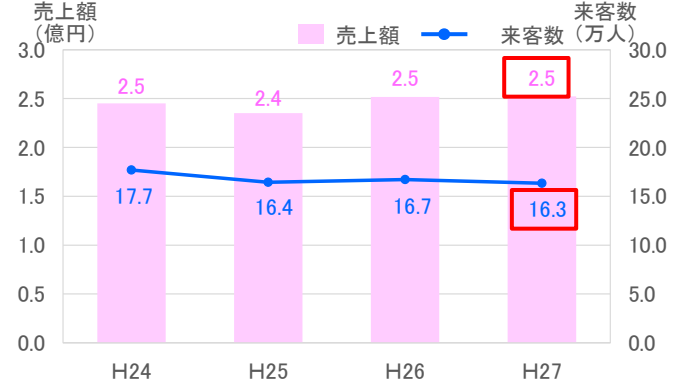
【施設の概要】

- 配置施設：交流促進施設（情報コーナー等）、特産品直売店、レストラン、トイレ
- 特産品：桃、梨、りんご、イワシ、アジ



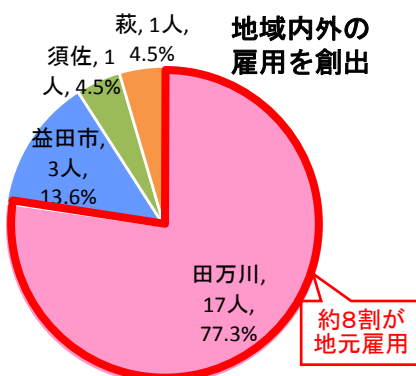
地元の桃や野菜を販売

【道の駅「ゆとりパークたまがわ」の売上額の推移・来客数*の推移】



※特産品直売部門の実績
来客数：レジ打ち件数
資料：萩市提供

【従業員の居住地内訳】



約8割が地元雇用

資料：道の駅ゆとりパークたまがわ提供

H25.7災害時の復興支援の拠点となった道の駅「ゆとりパークたまがわ」

H25.7災害時の復興時には、家財を失った被災者のために、大手輸送業者とNPO法人が共同で「たまがわ復興いちば」を開催し、リサイクル品を格安で販売して、被災地の復興を支援



「道の駅」を拠点とした地場産業の振興

市内に7つある道の駅は、観光拠点であるとともに、地域の雇用創出や経済の活性化にも大きな効果があることから、更なる活力の創出に向けた（道の駅の）取組を支援。道の駅は、各地物商材を中心に品揃えした地産地消の拠点施設。「地域の生産者を支える」道の駅の取組を支援し、地場産業の振興に取組む。

（萩市総合戦略 抜粋）

5. 課題の整理

5. 課題の整理

1) 地域の課題と要因 (案)

■ 山陰道 (小浜～田万川) の地域の課題と要因の整理

これまでのヒアリング等により想定される地域の課題(案)		これまでのヒアリング等により、考えられる道路・ネットワークの要因(案)
産業 (農産品)	<ul style="list-style-type: none">益田市では国営農地における大規模な農業展開や益田産品のブランド化を図る特産品創出を進めているが、今後「産地の体制維持」及び「更なる販路拡大」が課題	<ul style="list-style-type: none">更なる販路拡大には現在の道路網では、難しいとの意見がある。
産業 (畜産)	<ul style="list-style-type: none">益田市の主要な産業である畜産業において、災害時に飼料の安定調達や製品の出荷に支障が発生し、経営に影響を及ぼすことが課題	<ul style="list-style-type: none">飼料の調達や製品の出荷に利用している国道191号が災害等で通行止めとなり、大規模な迂回が発生する。
産業 (企業立地)	<ul style="list-style-type: none">益田市において、ファクトリーパークを企業集積拠点と位置付け、企業立地強化支援を行っているが、企業生産活動の候補地として他の工業団地と比較し高速道路へのアクセス性等が劣るため立地が進まないことが課題	<ul style="list-style-type: none">既存の高速道路ICまで、約36kmの距離がある。 (ファクトリーパーク～山陰道西村IC間)
観光	<ul style="list-style-type: none">「空の玄関口(萩・石見空港)がある益田市」と「世界文化遺産に登録された明治日本の産業革命遺産がある萩市」と「日本遺産に認定された津和野町」に隣接するが、広域観光周遊が進まないことが課題	<ul style="list-style-type: none">萩市から益田市間の移動には1時間以上を要し、急カーブや急勾配区間が存在する。
医療	<ul style="list-style-type: none">萩市(旧田万川町、旧須佐町)及び阿武町は救急搬送に30分以上要する高次救急医療の空白地域であり、高次医療サービスを受けないことが課題	<ul style="list-style-type: none">救急搬送には線形が悪く、代替性のない国道191号しか存在しない。

⇒ 今後のアンケート・ヒアリング、自治体との調整等により、明確化を行う。



至 萩・長門
JR山陰本線
至 小川

至 津和野

凡例		凡例	
●	(生活環境の保全) 拠点施設	▨	線形不良箇所
■	市街地・集落	⊗	要防災対策箇所
●	小・中学校・高校	×	災害による通行規制発生箇所 (H17～H26)
▨	洪水時浸水想定区域	×	事故による通行止め発生箇所 (H16～H25)
■	国営農地	◀▶	速度低下区間 (旅行速度20km/h区間)
■	ゴルフ場		
⊕	高次医療施設		

※図中の交通量はH22道路交通センサス平日交通量

(参考) 圏域の将来像

◇新たな全国計画(H27. 8閣議決定)を踏まえ、個性豊かな地域が相互に連携することにより、ヒト、モノ、情報等が双方向で活発に行きかう「対流促進型国土」の形成を基本として、「コンパクト+ネットワーク」により、「稼げる国土」、「住み続けられる国土」の実現を目指す。

◇概ね10年間の国土づくりの戦略として、平成28年3月に全国8ブロックの「広域地方計画」を決定。中国圏では4つの将来像を実現するため、6つの基本戦略を設定。

中国圏広域地方計画～瀬戸内から日本海の多様な個性で対流し、世界に開かれ輝く中国圏～

4つの将来像

- ① 国内外の多様な交流と連携により発展する中国圏
- ② 産業集積や地域資源を活かし持続的に成長する中国圏
- ③ 豊かな暮らしで人を惹きつける中山間地域や島しょ部を創造する中国圏
- ④ 新たなステージにも対応する安全・安心な中国圏

6つの基本戦略

- ① 重層的なネットワーク形成と拠点都市の整備による対流促進型圏域づくり
- ② ものづくり産業の競争力強化、観光振興等経済の活性化
- ③ 中山間地域・島しょ部における人口減対策等地域振興の推進
- ④ 土砂災害・水害対策やインフラ長寿命化等による強靱な圏域整備と安全・安心の推進
- ⑤ 環境と産業・生活が調和した地域づくり
- ⑥ 将来の発展を担う人材育成

基幹交通の整備による重層的ネットワーク形成イメージ

山陽側の交流の強みを活かすとともに山陰の地域資源の魅力を発揮することで、圏域内外の対流を促進し、持続的に発展するための基盤となる山陰道のミッシングリンク解消など、基幹交通の整備によるネットワークを強化。

〈山陰道の整備〉

観光資源の連携による広域観光ルート形成や山陽と九州との物流効率化等の役割を担うものとして整備を推進。



資料：中国圏広域地方計画 説明資料 (H28. 3)

5. 課題の整理

2) 地域の将来像

項目	地域の将来像
産業・経済	<ul style="list-style-type: none">○自然が育む資源を活かした産業の振興、産業基盤の維持・整備 <島根総合発展計画>(H28.3)○世界に広がる産業力強化、元気な農林水産業育成 <元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン>(H27.3)○市内の産業構造や基盤を強化 <益田市総合振興計画>(H28.3)
観光	<ul style="list-style-type: none">○観光の振興 <島根総合発展計画>(H28.3)○山口の魅力発信・観光力強化 <元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン>(H27.3)○観光・交流を促進 <益田市総合振興計画>(H28.3)○観光資源・情報のネットワークづくり <萩市都市計画マスタープラン>(H23.3)
医療	<ul style="list-style-type: none">○医療の確保 <島根総合発展計画>(H28.3)○安心の保健・医療・介護充実 <元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン>(H27.3)○救急・医療体制の充実 <益田市総合振興計画>(H28.3)○保健・医療・福祉の充実 <萩市都市計画マスタープラン>(H23.3)
防災	<ul style="list-style-type: none">○災害に強い県土づくり <島根総合発展計画>(H28.3)○災害に強い県土づくり <元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン>(H27.3)○自助・共助・公助の消防・防災体制を強化 <益田市総合振興計画>(H28.3)○防災拠点のネットワーク <萩市都市計画マスタープラン>(H23.3)
安全	<ul style="list-style-type: none">○安全対策の推進 <島根総合発展計画>(H28.3)○日々の暮らし安心・安全確保 <元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン>(H27.3)○地域の安全対策を強化 <益田市総合振興計画>(H28.3)○市民の安全な交通環境整備 <萩市都市計画マスタープラン>(H23.3)

5. 課題の整理

2) 地域の将来像（益田市のまちづくり）

- 益田市都市計画マスタープランにおいて、まちづくりの方針が整理されている。
- 益田市の将来都市構造としての石見臨空ファクトリーパークを中心とした産業拠点等の位置付けや、都市間連携を強化する広域交通体系の確立等の方針が示されている。

益田市の将来都市構造

1. 拠点の位置付け

- (1) 活力ある経済、交流等の市民活動の拠点としての「都市拠点」
- (2) 地域の生活圏の中心としての「地域拠点」
- (3) 市民生活を支える地区としての「生活拠点」
- (4) 産業基盤を育成する地区としての「産業拠点」
 - ・石見臨空ファクトリーパークを中心とした区域を、本市の産業基盤を育成する地区として「産業拠点」と位置づけ、企業の誘致、集約化など、産業振興の中心的役割を担います。
- (5) 益田らしさを演出する地区としての「歴史・文化拠点」

2. 連携軸の位置付け

(1) 周辺の都市間を結ぶ「広域連携軸」

- ・周辺都市との広域連携に寄与する基軸として、南北に走る国道9号、東西に走る国道191号と国道488号、広域幹線道路である益田道路、三隅・益田道路（山陰道）を「広域連携軸」と位置づけます。
- ・これらの道路により、周辺都市との広域連携の実現に加え、交流人口の拡大をめざし、浜田市、津和野町などの県内隣接市町との連携を図るとともに、**県境に位置する特性を活かして山口県や広島県等、他県との都市間連携ネットワークの形成を図ります。**

(2) 都市内の都市拠点・地域拠点間を結ぶ「都市内連携軸」

(3) 地域内の地域拠点・生活拠点間を結ぶ「地域内交流軸」

3. 土地利用ゾーンの位置付け

益田市のまちづくり方針

- 1. 土地利用の方針
- 2. **交通施設の整備方針**
- 3. 市街地整備の方針
- 4. 都市及び自然環境形成の方針
- 5. 景観形成の方針
- 6. 都市防災の方針
- 7. 福祉のまちづくり方針

○ 交通施設の整備方針

1. 交通体系の基本方針

- 都市間連携を強化する広域交通体系の確立
益田市が浜田市等と共に島根県西部の中心都市としての役割を果たすために、**主要な拠点都市との連携を強化する陸路や空路の広範な交通施設のネットワーク化とその高速化を促進し、人・モノ・情報の交流・連携を支える総合的な広域交通体系の確立を図ります。**
- 生活と産業を支える交通ネットワークの構築
- 公共交通施設等の利便性の向上と利用促進
- 持続可能な都市の構築へ向けた効率的な道路の整備

2. 道路の整備方針

- **広域幹線道路の整備方針**
- 都市幹線道路の整備方針
- 地域幹線道路の整備方針
- 歩行者系道路の整備方針

3. 公共交通施設等の整備方針

5. 課題の整理

2) 地域の将来像（萩市のまちづくり）

- 萩市都市計画マスタープランにおいて、まちづくりの方針が整理されている。
- 萩市のまちづくりにおいて高規格幹線道路及び地域高規格道路を基幹都市軸と位置付け、広域的なゲートウェイとなる萩・石見空港等へのアクセス強化により、物流や交流の活発化を促す交流ネットワークの形成等の方針が示されている。

萩市の将来都市構造

旧萩市市街地が中心拠点となり、旧町村の中心集落を地域拠点として、相互に補完する連携型の都市構造を目指す

1. 多様な拠点からなる都市構造

- (1) 旧萩市市街地を都市機能の核をなす「中心拠点」
- (2) 街のにぎわいゾーンの核をなす「歴史の拠点」
- (3) 海の玄関口となる萩港を中心とした「海の拠点」
- (4) 地域のうるおいの源となる「みどりの拠点」
- (5) 日常生活機能の集積を図る「地域拠点」

2. 移動や活動を支える骨格的道路網

(1) 基幹都市軸

・中心拠点と周辺市町との広域的な連携強化を図るため、山陰自動車道、萩三隅道路、小郡萩道路を基幹都市軸として位置づけ、その整備を促進

(2) 主要都市軸

・国道191号、国道262号をはじめとする都市の骨格を形成する主要な国道や県道を主要都市軸と位置づけ、都市内の拠点相互の連携を強化
 ・都心空間の求心性向上及び周辺都市との交流促進に資する主要軸として機能強化

3. 自然や歴史を踏まえた3つの個性的な空間の形成

4. うるおいある都市を演出する緑空間

萩市のまちづくり方針

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 自然環境の保全の方針 | 5. 景観形成の基本方針 |
| 2. 観光基盤整備の基本方針 | 6. 河川・上下水道の整備方針 |
| 3. 交通体系の基本方針 | 7. その他の都市施設の整備方針 |
| 4. 公園・緑地の基本方針 | 8. 市街地・集落整備の基本方針 |
| | 9. 防災に関する基本方針 |

○ 交通体系の基本方針

【道路】

広域的な経済活動・交流と、市内の円滑な移動環境をつくりだし、また効果的な交通規制や自動車、歩行者の共存を可能にするため、役割分担された道路網体系を確立し、市民の安全な交通環境を整備

■ 高規格幹線道路及び地域高規格道路の整備

- 山陰自動車道の早期建設を促進し、萩・石見空港等からの受け入れ時間の短縮化を図るとともに、物資の流通や人の交流の活発化を促す交流ネットワークの形成を推進
- 山陰自動車道の機能を代替する一般国道191号萩三隅道路についても整備を促進するとともに、小郡萩道路と連結する萩インター周辺の環境を整備

■ 広域的幹線道路の整備

- 広域観光ルートの確立及び周辺市町との連携を強化

■ 道路ネットワークの構築

- 幹線道路ネットワークの整備を進め、萩市と周辺市町村及び萩市市街地と外部との交流・連携を強化

■ 市内幹線道路の整備

■ 生活道路の整備

■ 歴史的まちなみにおける道路整備

6. 意見聴取方法

6. 意見聴取方法

■意見聴取の基本方針

把握する意見
高規格幹線道路 山陰道の未整備区間及び並行する国道191号の課題
地域の改善すべき課題

■アンケート配布範囲 ※配布数は地域住民アンケート



■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法		
ヒ ア リ ン グ	【関係自治体及び団体】 島根県・山口県・関係市・団体へ意見照会	
	自治体：島根県、山口県、益田市、萩市	
	各団体：トラック協会、商工会議所、警察署、消防署、農協、森林組合、観光協会等	
ア ン ケ ー ト	【地域住民】 関係市の住民へ郵送配布	約22,800部
	益田市(旧益田市)	約19,800部
	萩市(旧田万川町)	約1,500部
	萩市(旧須佐町)	約1,500部
	【企業及び団体】 島根県内・山口県内・外の企業へ郵送配布	約1,300部
	県内：企業・事業所	約1,100部
県外：トラック協会等	約200部	
【道路利用者等】 島根県内・山口県内の道の駅及び観光施設に常設及びヒアリング調査 広域的な利用者の意見聴取に向けたWEB調査		約2,800部

6. 意見聴取方法

■ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの調査項目	ヒアリング結果の活用	備考
行政や業界への意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道や地域の課題に関し、行政や業界への意見聴取を行い、政策目標の設定に反映する。 ・ 行政又は業界との認識の整合性の確認をする。 	共通

■アンケートの調査項目と活用方針

把握する意見	アンケート結果の活用	備考
国道の課題	高規格幹線道路 山陰道の未整備区間及び並行する国道191号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	第1回
地域の課題	将来（10～20年後）を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。	
比較ルート帯案（複数案）に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルート帯選定にあたり、回答者が重要視する視点を把握する。 ・ インターチェンジ設置位置（配置計画）において、回答者が重要視する視点を把握する。 	今後
その他自由意見	その他、各区間に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分類で整理し、分析する。	共通

6. 意見聴取方法

■ 計画概要

① 調査概要

- 本調査の主旨、調査対象箇所について説明。

沿線住民用

山陰道(小浜～田万川)における 計画に関する第1回意見聴取

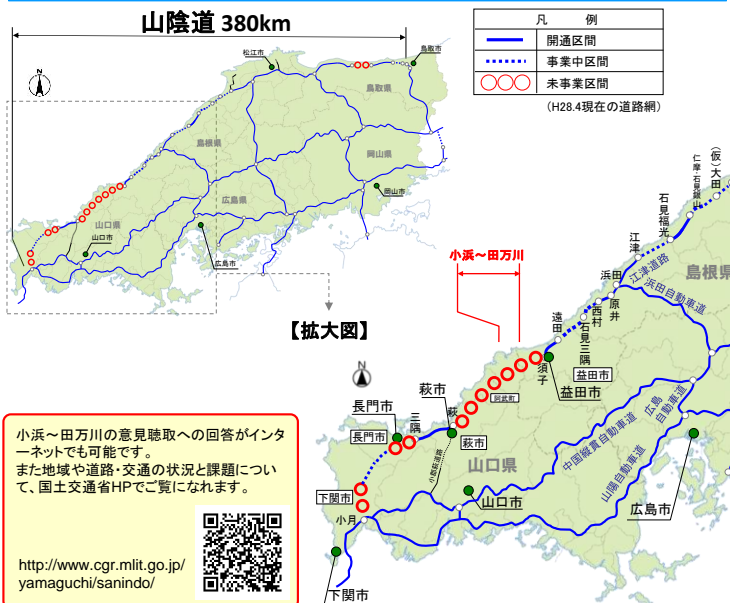
(案)

山陰道は、鳥取県鳥取市から島根県を経由し山口県下関市に至る総延長380kmの高規格幹線道路であり、山陰地方の地域経済の活性化、観光の振興、災害に強い道路ネットワークの確保を主な目的として整備を進めています。
本調査は、このうちの小浜～田万川間の計画検討にあたり、地域の皆さまの生活にも役立つ道路とするため、ご意見を伺うものです。

本調査にご協力いただきますようお願いいたします。

※高規格幹線道路とは、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路のことです。

■ この調査の対象は、小浜～田万川の区間です。



小浜～田万川の意見聴取への回答がインターネットでも可能です。また地域や道路・交通の状況と課題について、国土交通省HPでご覧になれます。

■ 国道191号(小浜～田万川間)の現状

② 小浜～田万川の周辺地域と国道191号の現状

- 対象地域周辺の拠点や対象路線沿線における道路課題について説明。



地域の将来を見据えた改善すべき地域の課題

■ 地域の将来を見据えた改善すべき地域の課題を解決するための目標は、以下のように考えられます。

産業の活性化

農産品の輸送に時間がかかり、「産地の維持」や「販路拡大」ができていない。

観光振興の促進

移動に時間がかかり、萩・石見空港と津和野町、萩市との広域観光連携が図られていない。

救急医療機関への迅速性、確実性の確保

高次救急医療施設への救急搬送に時間がかかるなど地域の安全・安心に課題がある。

通行止め時に機能するネットワーク(代替性)の確保

災害時でも機能する道路がなく、安定した企業活動ができない。

企業進出・雇用促進

地域の生産拠点である石見臨空ファクトリーパークへの企業立地が進んでいない。

6. 意見聴取方法

③質問内容・解答欄

(裏面)

【質問票】 (回答はがきに記載してください)

質問1「小浜～田万川間」の国道191号には、どのような交通課題があると思いますか？以下の①～⑧の課題について、**5段階評価**してください。

※現状について分からない方は、「分からない」の欄に「○」を付けてください。

<5段階評価> 5. 強くそう思う 4. ややそう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

- ① 各拠点への移動に時間がかかる
- ② 急カーブ、急勾配区間が存在し、快適に走行できない
- ③ 交通事故が発生しやすく、危険である
- ④ 交通事故による通行止めが発生すると、大きな迂回を強いられる
- ⑤ 大雨による通行止めが発生すると、大きな迂回を強いられる
- ⑥ 歩道が無い箇所が有り危険である
- ⑦ 大型車が多く危険である
- ⑧ その他(自由回答)

質問2 この地域の将来を見据えた改善すべき地域の課題について、以下の①～⑥の質問に対して、**5段階評価**してください。

<5段階評価> 5. 強くそう思う 4. ややそう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

- ① 農産品の輸送に時間がかかり、「産地の維持」や「販路拡大」ができていない
- ② 災害時等でも機能する道路がなく、安定した企業活動ができない
- ③ 地域の生産拠点である石見臨空ファクトリーパークへの企業立地が進んでいない
- ④ 移動に時間がかかり、萩・石見空港のある益田市と著名な観光地がある津和野町、萩市との広域観光連携が図られていない
- ⑤ 高次救急医療施設への救急搬送に時間がかかるなど地域の安全・安心に課題がある
- ⑥ その他(自由回答)

質問3 その他、この区間の道路整備の必要性や今後の方向性などについて、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ありがとうございました。

■回答方法

・回答は、右記の返信用はがきに記入し、切り取って郵便ポストに投函してください。

■締め切り

・平成**年**月**日(○)まで に投函願います。

【回答はがき】 (質問票をご覧ください回答してください)

キリトリ線 

質問1について、お答えください <5段階評価>

※現状について分からない方は、「分からない」の欄に「○」を付けてください。

5. 強くそう思う 4. ややそう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

交通課題	あなたの評価の程度					分からない
①	5	4	3	2	1	○
②	5	4	3	2	1	○
③	5	4	3	2	1	○
④	5	4	3	2	1	○
⑤	5	4	3	2	1	○
⑥	5	4	3	2	1	○
⑦	5	4	3	2	1	○

⑧その他(自由回答)

質問2について、お答えください <5段階評価>

5. 強くそう思う 4. ややそう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

道路機能	あなたの評価の程度				
①	5	4	3	2	1
②	5	4	3	2	1
③	5	4	3	2	1
④	5	4	3	2	1
⑤	5	4	3	2	1

⑥その他(自由回答)

質問3について、お答えください <自由回答>

6. 意見聴取方法

④手続きの流れ・はがき表面

(表面)

今後の手続きの流れ

定形郵便物

6 9 7 8 7 9 0

島根県浜田市相生町3973

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所

調査設計課 行

◆あなた自身のことについて【記入または該当する番号に○をつけてください】

住所 〒 _____ 県 _____ 市・郡 _____ 町 _____

性別 ① 男性 ② 女性 年齢 _____ 歳代 _____

◆「小浜～田万川間」の国道191号(以下「対象路線」)の普段の自動車利用状況について【該当する番号に○をつけてください。】

Q. 現在の対象路線を自動車で利用する頻度を教えてください。

① ほぼ毎日 ② 週2～3回程度 ③ 月2～3回程度
→①、②、③を選ばれた方は《下段》の質問へ

④ ほとんど利用しない ⑤ 利用したことがない
→④、⑤を選ばれた方は《裏面》の質問へ

Q. 対象路線の自動車による主な利用目的を教えてください。

① 通勤 ② 通学 ③ 家事・買い物
④ 仕事 ⑤ 観光・レジャー ⑥ その他(_____)

Q. 目的地を教えてください。

① 益田市 ② 萩市(旧田万川町) ③ 萩市(旧須佐町)
④ 阿武町 ⑤ 萩市(旧萩市) ⑥ 萩市(その他)
⑦ 長門市 ⑧ 浜田市
⑨ その他(_____) 《裏面》の質問へ→

※)本アンケートでお答えいただいた意見および個人情報は、他の目的で使用したり、第三者に使用させたりすることは一切いたしません

計画段階評価の流れ

(小浜～田万川)

【山陰道(須子～萩)】
優先整備区間の検討、選定等
(平成27年4月2日)
社会資本整備審議会道路分科会 中国地方小委員会

(大井～萩、木与付近、小浜～田万川)
優先整備区間の選定

中国地方小委員会
 地域のみならず、関係機関、
企業等への意見聴取【第1回】

中国地方小委員会
 地域のみならずからの意見聴取等も
踏まえ、概略ルート・構造等を引き
続き検討します。
意見聴取

新規事業採択時評価

今回のアンケートはこの段階です

※計画段階評価とは、公共事業の実施過程の透明性を一層向上させる観点から、地域の声を聞きながら計画段階において事業評価を行う取り組みです。

アンケートのお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所

担当：調査設計課
☎ 0855-22-3129

安心して快適な
地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。